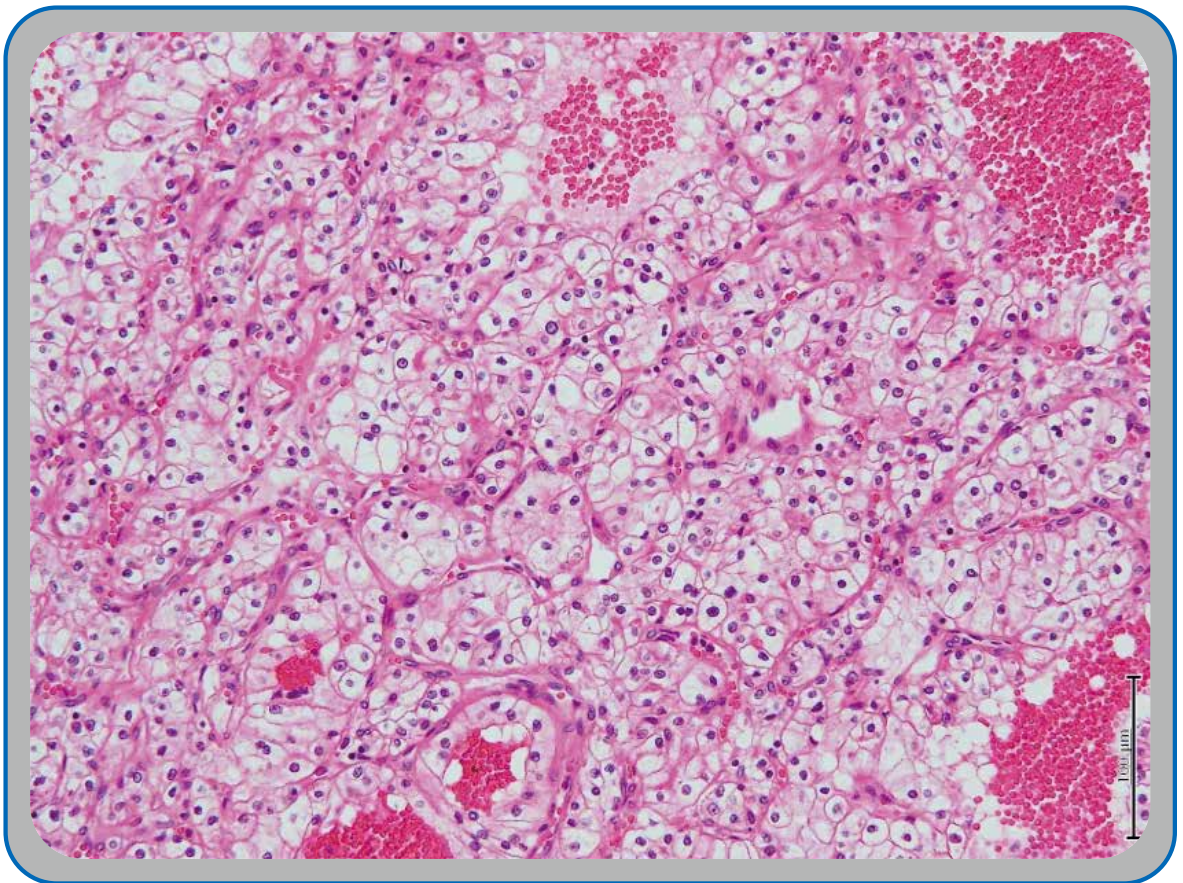


第30号

さくらじま

大山 勝名誉教授追悼号

2016



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

病理組織所見：腎細胞癌甲状腺転移

目

次

巻頭言	1
会長の挨拶	2
I. 大山 勝名誉教授追悼集	3
II. 同門会員業績・学会発表	27
III. 教室来訪者	29
IV. 教室行事	
1. 共催の講演会	30
2. 第18回さくらじまフォーラム	32
3. 第15回「鼻の日」市民講座	33
4. 第9回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座	33
V. 同門会報告	35
VI. 地域医療報告	
1. 学校保健（統計報告）	37
VII. 特殊外来通信	
1. 難聴・耳鳴・めまい外来	39
VIII. 病理集計	40
IX. 手術実績	41
X. 各省庁諸研究	42
XI. 業 績	
1. 原 著	43
2. 総 説	46
3. 国内学会発表	47
4. 国際学会発表	54
XII. 医局通信	
1. 医局人事	56
2. 学会報告	
①第27回日本喉頭科学会総会・学術講演会	57
②第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	57
③第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	58

④第64回日本アレルギー学会学術大会	59
⑤第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会	60
⑥第77回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会	60
⑦第30回九州連合地方部会学術講演会	62
⑧第22回 マクロライド新作用研究会	63
⑨第3回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロソール学会総会・学術講演会	63
⑩第28回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会	64
⑪第54回日本鼻科学会総会・学術講演会	64
⑫第25回日本耳科学会総会・学術講演会	65
⑬第67回日本気管食道科学会総会・学術講演会 第8回喉頭機能温存治療研究会	66
⑭ The 44 th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology	66
⑮第9回九州頭頸部癌フォーラム	67
⑯第26回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会	67
⑰第34回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	67
3. 国際学会発表	
①2015 Seven Departments Joint Meeting	68
②13 th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery	69
4. 関連病院便り	
①鹿児島医療センター便り	70
②鹿児島市立病院便り	72
③藤元総合病院便り	73
④鹿児島生協病院便り	74
⑤天辰病院便り	76
XIII. 関連病院と診療日案内	77
XIV. 海外同門会名簿	80
XV. 自治医科大研修生	84
同門会会則	86
編集後記	88

巻 頭 言

黒 野 祐 一

昨年7月11日(土)6時30分に大山 勝先生がご逝去されました。「和と情熱」をモットーに、その卓越した指導力と豊かな創造力によって当教室の黄金時代を築き上げられた大山先生を失くした悲しみと虚しさは今もなお消えることはありません。そこで、今年の「さくらじま」は大山先生の追悼号とし、皆で大山先生の思い出を語り合い、互いを慰めあい、明日へ向かう力と勇気を再度大山先生からいただきたいと思っています。

さて、昨年も様々な出来事がありました。ノーベル生理学・医学賞を大村智氏が、物理学賞を梶田隆章氏が受賞し、日本のそして日本人の素晴らしさを実感しました。また、9月に開催されたラグビーのワールドカップイングランド大会では日本は歴史的な3勝を挙げ、南アフリカと対戦での勝利は奇跡と報じられ、最後の逆転劇はラグビーワールドカップ史上最高の瞬間と称賛されました。しかし、その後、日本チームが体格の不利を補うための緻密な作戦を立て、それを実行するために極めて過酷な練習に耐え抜いたことを知り、この勝利は奇跡などではなかったと、さらに感動させられました。五郎丸選手のキック時のポーズも話題になりましたが、それが一つのルーティンあると聞き、その重要性も教えられました。高い目標に向かって入念な計画を立て、歯を食いしばって頑張り、毎日のルーティンを忘れないこと、人生の教訓をあらためて認識する出来事でもありました。

鹿児島県でも仙巖園内にある旧集成館が世界文化遺産に登録され、九州新幹線全線開通以来ひざびさに活気に溢れています。その一方で、鹿児島県の人口減少率の高さが問題となっていますが、当科では昨年、問世田先生が第2子を、宮本先生が第1子を無事出産し頑張っています。しかし、彼女らの産休・育休により教室のマンパワーが低下し、病院の診療実績に貢献できず、病院長からは毎月檄が飛ばされています。アラバマ州立大学での2年間の留学を終えて大堀先生が帰国しましたが、入れ替わりに川畠先生が同大学へ留学したため、教室の先生らの負担と苦労はなかなか軽減できません。でも、彼らの底力は計り知れないものがあるように思います。同門そして地方部会の先生方には、どうぞ遠慮なくどしどし患者さんをご紹介くださるようお願い致します。5年後、10年後の鹿児島県における耳鼻咽喉科医療は、他のどの診療科よりも深刻な状況に置かれるのではないかと懸念します。そうならないように若い医師にあえて試練を与え、日本ラグビーチームのような奇跡を起こしたいものです。

今年は第78回耳鼻咽喉科臨床学会を鹿児島で開催します。皆様に奮ってご参加いただくとともに、今年1年、更なる御支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

当番医体制は維持できるか

山 本 誠

平成27年7月11日大山勝先生が旅立たれた。昭和52年から平成9年まで鹿大耳鼻咽喉科学を主催され、我々は大きな恩恵を受けました。その間の入局者数は69名にも上がり、今の鹿児島県の耳鼻咽喉科医療を支えており、県耳鼻科会員の3分の2を占めて医会運営を荷っています。今年号は大山先生の追悼号でもあります。私の思いは弔辞の中に述べさせていただきます。

今年は年末年始にかけて暖かく正月2日の当番医も昨年の半分の患者数でほっとしましたし、同門会も沢山の会員の御出席をいただき無事に終りありがとうございました。一方、世界経済は中国経済の低迷で不安定となり、アベノミクス効果も疑問符がついており、今回の診療報酬改定では耳鼻科関連は大きな変動はなかったものの今後の動向が心配です。

私事では昨年4月前立腺穿刺32ヶ所中2ヶ所にグリソンスコア8の癌が判明しました。手術か放射線治療かと迷いましたが、再発したときに放射線治療が可能という事で手術を選択しました。ホルモン化学療法（エストラサイト内服とゴナックス皮下注）で前立腺及び腫瘍の縮小を計り、平成28年1月頃の手術予定となりました。ところが9月中頃から下肢の浮腫が生じ、D-ダイマーも3.6と上昇したのでエストラサイト内服は中止となり、ゴナックス皮下注は12月まで続けました。本年1月は自己血貯血を200ccずつ4回行い、2月2日に拡大前立腺全摘除術を受けました。幸い摘出前立腺辺縁やリンパ節に腫瘍は認められず2ヶ月に1回PSA測定での経過観察となっています。日本人の半分は癌になる時代ですので会員の皆様の定期検診を再度お勧めします。

今年度は6月に耳鼻咽喉科臨床学会が鹿児島で開催されるにつき御協力ありがとうございました。地元開催ですので多数の先生方に御出席していただき、会を盛り上げたいものです。鹿児島市の当番医体制も2・3人の欠番が生じており、開業医の平均年齢も60才に近くなっていますので、将来の体制の維持が危惧されます。開業医の減少を防ぐには鹿大耳鼻科医局員の増員が大事です。講演会などでの医学生への声かけや医局行事への参加など皆様の御協力をお願い申し上げます。

最後に浅野庄三先生が花牟礼耳鼻咽喉科閉院に伴い3月31日をもって同門会を退会されました。教室出身でないにもかかわらず長年に渡っての御尽力と御協力に感謝申し上げます。

大山 勝先生を偲んで



大山 勝名誉教授 近影

大山 勝先生 略歴

昭和6年9月17日	鹿児島県十島村にて出生
昭和26年3月	鹿児島県立大島高校卒業
昭和32年3月	三重県立大学医学部卒業
昭和43年～2年間	米国 ワシントン大学医学部耳鼻咽喉科招聘研究員
昭和45年2月1日	三重大学医学部 助教授
昭和52年11月16日	鹿児島大学医学部 教授
昭和57年11月12日	第12回耳鼻咽喉科感染症研究会会長 第6回日本医用エアロゾル研究会会長
昭和58年11月4日	第22回日本鼻科学会会長
昭和59年5月18日	日耳鼻宿題報告「上気道粘膜の病態生化学－診断と治療への結びつき－」担当
昭和62年9月20日	Kagoshima International Symposium – Glycoconjugates in Medicine – 主催
昭和63年10月6日	第2回レーザーサーミアシンポジウム会長
平成元年10月6日	第18回医学生物学走査電顕シンポジウム会長
平成2年10月12日	第42回日本気管食道科学会会長
平成3年2月1日	鹿児島大学医学部附属病院 院長
平成3年9月1日	日本鼻科学会 理事長
平成4年3月27日	第10回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会会長
平成4年10月31日	第4回日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会会長
平成6年7月16日	第56回耳鼻咽喉科臨床学会会長
平成6年10月13日	第15回日本レーザー医学会・第8回国際YAGレーザーシンポジウム会長
平成7年11月1日	第40回日本音声言語医学会会長
平成8年6月5日	環境保全功労者表彰
平成9年4月1日	鹿児島大学 名誉教授 大島郡医師会病院 病院長
平成12年8月1日	大島郡医師会病院 名誉院長
平成23年4月29日	叙勲（瑞宝中綬章）

追想「大山 勝先生との思い出」

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 黒野 祐一

日本鼻科学会の理事長をはじめ耳鼻咽喉科領域の多くの学会の要職を務め、数々の業績を残された鹿児島大学名誉教授の大山勝先生が、平成27年7月11日にご逝去されました。享年83歳でした。ご家族に見守られ、今年4月に慶応大学の耳鼻咽喉科に入局したお孫さんの手を取りながら、安らかに眠るように天国へ旅立たれました。

私は昭和55年に鹿児島大学を卒業後2年間、大山先生のご指導を受け、平成9年からは大山先生の後任として鹿児島大学に着任し、同時に、大山先生が長年担当されていた本誌の「新刊書紹介」のコーナーも引き継ぐことになりました。そのような経緯もあり、ここに大山先生の思い出をいくつか綴ってみたいと思います。

大山先生は包容力があり誰でも何でも受け入れ、そして暖かく見守ってくれる、そんな優しい父親のごとき存在でした。ちなみに私は、その大山先生に魅せられ憧れ、大学卒業後は何ら迷うことなく耳鼻咽喉科に入局し、大山先生にとっては教室員として最初の仲人をお願いしました。また、先生は常に大志を抱き、いつでも先頭を切って勝負に出ていくような指導力と情熱に溢れ、まさに名前が先生の人となりを示していたように思います。それゆえ、紳士的で穏やかな風貌からはとても想像できない気丈さを持ち合わせており、たとえばある時、趣味とされていたゴルフでバンカーショットが思うようにいかず、クラブをその場に打ち付けて曲げてしまったと、私のもう一人の恩師で大山先生の友人であった故茂木先生からお聞きしたことがあります。

このような大山先生のお人柄には、先生の経歴も影響しているかもしれません。先生は昭和6年9月17日に鹿児島県の離島の一つである十島村で生まれ、鹿児島県立大島高校を卒業後、当時はまだ米国の占領下にあった奄美大島から、国費留学生としてパスポートを持って三重県立大学医学部に入学されました。そして、学生時代に上顎の腫瘍を患い、その手術を受けたことが耳鼻咽喉科の道を歩むきっかけとなり、医師となつてからは、機会が与えられれば鹿児島でぜひとも働きたいと思っていたそうです。これらのことから、先生がいかにか強く医師となること、そして離島医療に貢献することを夢見ていたかを知ることができます。

しかし、現役のころは教授としての仕事に追われて離島医療に十分に力を注ぐことができなかつたため、退官後直ちに大島郡医師会病院へ赴任し、病院長業務とともに耳鼻咽喉科医としても診療に従事し、さらにはそこを拠点として離島の巡回診療も自ら率先して行っておられました。その情熱は並々ならぬものがあり、数年前、台風が奄美大島に上陸して大洪水に見舞われたときのことで、鹿児島空港でその奄美大島へ発とうと

する大山先生にたまたまお会いし、「このようなときに危なくないですか？」という私の愚問に、「だからこそ行くのだよ」と笑って答えられた先生に大きな感動を覚えました。

大山先生は創造性が豊かでアイデアに溢れ、常に新しいものを求めていました。先生の医療の原点である離島診療においても、大学から常勤医を派遣することが困難であったころ、「空飛ぶ手術部隊」と称して離島での外来手術に自ら赴き、マスクミで大きく報じられました。また、鼻粘膜の色調を計測する装置を開発し、「光を当てるだけで鼻の病気が簡単に診断できる」と新聞で取り上げられ、その翌日には大学病院の外来がその検査を希望する患者で溢れ、その対応に大騒動したこともありました。レーザー医療にもいち早く注目され、炭酸ガスレーザーを全国に先駆けて導入されたのは私が入局した年でした。そこで、私と上司とでその臨床研究をするよう指示を受け、喉頭病変に限らずさまざまな耳鼻咽喉科疾患での治療を試み、それが私の最初の研究論文となりました。また、そのお蔭で、あるレーザー治療研究会では、他大学の教授や講師の先生と肩を並べて研修1年目の私が講演をさせていただいたこともありました。このような夢のような機会を得たことに感謝するとともに、駆け出しの右も左も分からぬ私にこのような大役を容認する大山先生の懐の深さに感銘を受けました。

こうした大山先生の若い医師を育成する姿勢は海外の医師にも向けられ、多くの韓国や中国、北欧から多くの留学生を受け入れてその指導にあたられ、彼らはそれぞれの国のリーダーとなって現在活躍しています。

“和と情熱”，これが大山先生のモットーであり、その精神は今もなお脈々と受け継がれています。この“和”をさらに広げ、“情熱”をより熱く燃やし、先生のご遺志を継いでいきたいと思います。

合掌

(美蕾120号より)

大山 勝先生を偲んで

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 黒野 祐一

本学会の名誉会員である鹿児島大学大学院医歯学総合研究科名誉教授の大山 勝先生が、2015年7月11日（土）6時30分にご逝去されました。お孫さんの、今年、慶応義塾大学医学部耳鼻咽喉科へ入局された上野真史先生の帰省を待ち詫びていたのでしょうか、彼が病室へ着くと間もなく、何かを託すようにその手を取りながら安らかに永久の眠りにつかれたそうです。

大山先生は昭和6年9月17日に鹿児島県の十島村でお生まれになり、昭和26年に鹿児島県立大島高校を卒業後、三重県立大学医学部に入学されています。当時、奄美大島は

まだ米国の占領下にあり、パスポートを持って日本に入国されたというお話をお聞きしたことが思い出されます。また、医学部学生時代に上顎腫瘍を患われ、その手術を受けたことが耳鼻咽喉科医になるきっかけになったことや、入院中の時間を無駄に過ごすのはもったいないとフランス語を勉強し読み書きができるようになったなど、大山先生の青春時代や耳鼻咽喉科学に対する熱い思いを私が医学部6年生のときに参加した忘年会の席で我々と車座になってお話しされ、それにとっても感銘を受け、私は耳鼻咽喉科、いや大山先生の教室に入局を決心しました。きっと、大山先生にお会いしなければ私は耳鼻咽喉科医にはならなかったと思います。そういう意味からも、私を耳鼻咽喉科医として生んでくれた生みの親を亡くした言葉に言い表すことのできない悲しさ寂しさに打ちひしがれる思いです。

大山先生の人望の厚さは、大山先生が昭和52年に鹿児島大学医学部に教授として着任されてから、毎年6～7名の医局員が入局したことから容易に推測できます。私は昭和55年に入局しましたが、一期上の2年目の研修医の人数を合わせると全教室員の過半数を占めるため、医局会の決議事項を多数決で決めると研修医の思うままになるからそうできないという意見が出たほどです。なにがそれほど魅力的だったのか。それは大山先生の温かい人間性は言うまでもなく、先生が描かれる大きな夢とそれを実現しようとする実行力と指導力にあったと思います。昭和59年に日本耳鼻咽喉科学会宿題報告「上気道粘膜の病態生化学—診断と治療への結びつき—」を担当され、大山先生がいち早く取り組まれた走査電子顕微鏡を駆使し、カラー化さらには三次元化した上気道粘膜の電顕像をこの時初めて公開し、参加者は全員その斬新な素晴らしい映像に見とれていました。この時、私は大山先生のご指示により大分医科大学で故茂木五郎先生のもとで仕事をしていましたが、この宿題報告のお手伝いが少しでもできてとても光栄です。

大山先生は国際人としても大いに活躍され、多くの海外の学会に参加されるだけでなく、鹿児島でたくさん国際学会を開催されました。とくに韓国や中国の先生らとの交流が深く、なかでも韓国延世大学耳鼻咽喉科と懇意にされ、Lee先生とYoon先生が当教室に留学し、そのお二人はともに延世大学の教授となり活躍されています。そのおかげで、大山先生の後任として鹿児島大学に着任した私も親しくお付き合いをさせていただいています。

大山先生と私は共に未年生まれで、今年年男です。「今年はきっと良いことがありますね」とお見舞いに伺った時にお話したのは、それが叶わず無念です。先生が築かれたこの教室を守り、少しでも成長した姿をお見せするため、残された任期をしっかり頑張る所存です。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

(日本鼻科学会誌5巻4号より)

大山先生への追悼文

山本耳鼻咽喉科 山本 誠

小さな出会いが人生を決め、その人の歴史を作りあげていく。「鹿大耳鼻科との出会いがなかったら、私の歩んだ人生は、大きく変わったものとなっていたと思う。」これは鹿大耳鼻咽喉科学教室誌創刊号の大山先生の巻頭言の一節ですが、我々も大山先生との出会いがなかったら、我々の人生も全く違ったものとなっていたであろうし、先生は我々の人生の羅針盤でした。先生を失った今、我々の心にぽっかりと大きな穴が開き、まさに巨星墜つのが感しております。ましては御親族の御心痛はいかばかりかとお察し申し上げます。

先生を拝見したのは昭和52年の春、勝田先生に誘われて、新しい教授になられると思われる、当時三重大学助教授のテキパキした座長姿でした。秋には鹿大に着任され、それから教室が大きく変わっていきました。当時先端の走査型電子顕微鏡を用いての形態学研究や繊毛運動の研究が始まり、今までの臨床一本槍から臨床も研究もとなり教室が活気づいてきました。先生の人間性と相まって7、8名の教室員も増加し、退官されるまでの在局者は80名以上になりました。特に昭和59年の宿題報告時はYAGレーザーを用いての上顎洞の蓋付き手術で世間の耳目を集め、全国から電話が殺到し、患者さんが集まりましたのも、先生の形態と機能をいかに残すかという考えの成果であり、現在の手術の先駆けとなりました。この頃、眼科と協同で離島での鼻の手術や扁桃摘出手術などを行い、空飛ぶ手術部隊として、最近の日帰り手術の先駆けであり、楽しい思い出です。又、先生はすばらしいアイデアマンでした。新しい考えを次から次へと出され、研究面では上気道粘膜における複合糖質、臨床面ではレーザー学に多大の貢献をされました。教室員も数十名外国留学しましたし、外国からの留学生も李先生をはじめに29名にのほりました。このように先生は顔が広く、面倒見がいい方で、世界に知人が多く、退官記念事業には海外からも50名近くの著名な先生方が来日されました。

大山先生は平成9年に鹿大を退官され、大島郡医師会病院長として離島診療に貢献され、平成12年からは名誉院長になられた後も月数回の離島検診や上野耳鼻科で週2回の診察を最近まで続けてこられ、平成23年には瑞宝中綬章を受章されました。お祝いの席での笑顔が今でも目に焼き着いております。先生は今年の秋から体調をくずされ、講演会でもお姿を拝見できなくなりましたが、昨年12月の「還暦の仲間を祝う会」に御出席された上、中座の予定が最後まで皆と歓談されたのが最後となりました。これからは先生の御紅顔に接する事はかなわなくなりましたが、遠からず、我々も先生のお側に行く事となりますので、それまでお仲間と楽しくされる事を祈っております。

今後残された我々は黒野先生や教室員の先生方の御協力を仰いで、鹿児島県の耳鼻科医療を守っていきますし、黒野先生の御指導の元で着々と成果を上げている教室の支援に全力を上げていきますので御安心下さい。

先生の耳鼻科への思いは上野先生や鶴丸先生、さらに真史さんの慶応大学耳鼻咽喉科入局となり引き継いでおり、真史さんの到着を待っていらしたかのように静かに息を引き取られたとお聞きし、思い残す事なく旅立たれたと確信しました。これからは奥様をはじめとし、上野先生、鶴丸先生御一家を全力をあげてお守りしていきますので、やすらかに眠り下さい。

天国の大山先生への手紙

松 村 益 美

天国へ一足先に召されました大山先生へお手紙を差し上げます。

生前の鹿児島大学医学部教授としてのご活躍は戦後のことでしたので非常にご苦勞なされたことと存じます。なかんずく一桁であった教室員を三年後には20名となされたのはお見事でした。更に平成6年には教室員は57名数えましたね。以上より教室の発展が素晴らしかったことは大山先生のご指導の賜と判断いたしました。心より先生の霊に敬意を表します。

“先生、本当にご指導有難うございました。”

以上

「大山先生へのお礼」

大 野 政 一

大山先生大変お世話になりいろいろ有難うございました。先生への謝辞はさくらじま11号（1997年）大山教授退官記念号に載せて貰って居ります。

ご退官後も黒野教授のもと、先生の多方面に亘られるご活躍をお聞きするにつけ、66才で医療を辞め10年目を迎えた私にとって大山先生は”超人”であるとの感を深く致して居ります。

先生の‘気配り’‘目配り’‘思い遣り’のご精神は余人の持たぬ天賦のものと思われ、もし先生が政治家を志して居られたら‘大医は国を治す’の言葉通り、日本はもっと良くなっていたと思う昨今です。

重ねてもう一度有難うございました。

大山 勝教授の思い出

今給黎総合病院耳鼻咽喉科 昇 卓 夫

大山 勝教授の思い出は当時の医局員にとってはとても、とても沢山あるものと思いますので、わたしは、2, 3のエピソードに留めたいと思います。教授が着任されたのは、確か昭和52年の末だったと思います。第一印象はなんと優しい先生なんだろうというものでした。

教授の着任後の最初の頃の大きな手術で印象深かったのは、前額皮弁を使った確か頭形成術で、自分がやりたかった形成外科的手術を見せて頂いて、とても興奮したのを覚えています。

部下の私どもにも紳士的で優しい、怒った顔など見たこともない先生でした。その大山教授は Golf もお好きで、あの紳士的な先生が、ボールがバンカーに入ったある時のことですが、なかなか nice out できなくて「クソー、クソー」と言われて、何回もバンカーショットをされた時は、全く別人を見る思いでした。

私は、当時の研究では、モルモットに騒音性難聴を作り、前後で ABR を測定したり、アミノ配糖体投与前後で ABR を測定したりと電気生理学的なことをさせてもらっていました。電気生理学的研究をやらせて頂いていたことがきっかけで、1981年にはドイツに留学させて頂きましたが、留学中にはわざわざミュンヘンの学会でドイツにお越しいただき私を見舞っていただき、久しぶりの教授と他医局員二人の顔を見て何か胸がキュンとしていました。

ドイツから帰国後、モルモットで実験をするとき、鼻アレルギー症状のみではなく、Asthma 症状も出はじめ、実験前にステロイドを内服し、実験後には気管支拡張剤を服用して実験を続けたのも今では良い思い出となっています。その後、Athma は出ていません。モルモットを余りに沢山実験に使ったのでその祟りだった? ののでしょうか。

私は今給黎総合病院に勤務して22, 3年になりますが、当院に赴任する時も、いろいろご心配、ご配慮頂いた事に感謝しながら、大山教授の思い出話を終えたいと存じます。

「大山 勝 先生を偲んで」

三重県四日市市
森川耳鼻咽喉科医院 森川 謙三

大山先生の御逝去に際し、御家族の皆様はもとより、私共門下生にとって本当に残念の極みです。

思い返せば、先生と最後に、ゆっくりとお話をさせていただいたのは、平成24年10月に三重県四日市市で御講演をさせていただいた時でした。

当日は先生の御専門分野の御講演ではなく、先生の歩まれた道についてのお話でした。御遠方の先生方にも多数御参加いただきました。誰からも慕われる先生の御人柄によるものだと思います。

追悼文としては相応しくないかもしれませんが、御講演の要旨の一部を記憶を辿り書かせていただき責を果たしたいと思います。

先生は「自立（健康）長寿をめざして」という題目で、健康長寿にとって対話（雑談、放談等）の重要性を話され、対話をすることは人生の最大の愉しみであり、脳の活性化に役立ち、若返りの秘薬であり、同時に三感（感激、感動、感謝）が人と人との絆を高め、脳を進化させ、アイデアを生み、人生を豊かにし、脳細胞の変化、損傷（アルツハイマー病等）の抑制、改善に繋がるとも話されました。

なかでも「五感人間」に関するお話は、特に印象に残っております。先生は現代社会は五感のうち、知識を確実に効率よく得られる視覚、聴覚に頼り過ぎて物事を深く考えず、情緒豊かな感性や人間味に乏しい知識人間、偏差値人間が重用され、尊敬されることに不満をもたれ、むしろ非論理的な直感を持ち、遊び心もあり、情緒豊かなアイデアを生む原始的な感覚である嗅覚、味覚、触覚の大切さ、重要性を強調され、同時に私共医療従事者の中から一人でも多くの右脳の人間が出ることを切望され、右脳人間のカンと閃きが研究開発、創造活動等に重要であると教えてくださいました。

先生は「笑う門には福来たる」を地でいかれ、先生の生涯は「一怒一老」ではなく「一笑一若」を実行され、お名前のごとく「笑顔に勝る化粧なし」を実践され、奥様、御家族を愛された人生であられたと思います。

先生、本当に色々御指導いただき有難う御座いました。心より感謝の念を申し上げ追悼文とさせていただきます。

大山 勝先生の思い出

鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科 花牟禮 豊

私が耳鼻咽喉科入局を決めたのは、大山勝先生にお会いできたからであり、1979年に入局を決めた当時のことを鮮明に覚えています。1977年に大山先生が鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学講座の教授として赴任され、臨床講義では視覚に訴える内容が極めて新鮮でした。また、学生にも丁寧に接し、他の教授からは感じられない何かを持っておられました。教授室に入局の相談にお伺いした時には、耳鼻咽喉科の将来について熱く語られ、最後には教授が手を差しのばされ、一緒に頑張ろうと握手で送っていただきました。教授の手は分厚く力強く、その時の感覚が今でも鮮明に残っています。教授室を出るときには耳鼻咽喉科入局を決めていました。

大山先生は走査電子顕微鏡を使用した多くの研究をされ、私も入局当初、走査電子顕微鏡での研究データの学会発表や論文作成を指導していただきました。一枚の写真は多くのことを語ることができ、たくさんの実験データを並べるより、決定的な一枚の写真を撮ることの重要性を強調されました。また、臨床の間でも、画像記録の重要性を強調され、私が入局した当時から、耳鼻咽喉科は将来、すべて内視鏡で診察する時代が来ると話しておられました。当時は、耳鼻咽喉科の所見は額帯鏡を使って観察し、所見をカルテにシェーマを書いて記録するという形式でしたが、大山教授は、当時導入されたばかりの太い硬性内視鏡に肩に担ぐ大きなビデオカメラを付けて、鼓膜や、鼻腔、後鼻孔、喉頭を観察し、学生にも供覧し、Uマチック・ビデオテープに記録していました。現在の耳鼻咽喉科診療は正に、内視鏡無しには考えられません。

入局後には、多くの先輩に恵まれ、また多くの後輩にも恵まれ、臨床に、研究に多くの時間を費やしました。大山教室については、たくさんの思い出がありますが、特に、1984年の宿題報告の準備には当時の医局員が一致団結し、夜遅くまで実験を繰り返し、発表スライドの準備や宿題報告モノグラムの作成に追われました。大変であったとともに楽しいとても充実した時間でした。私は走査電子顕微鏡 (SEM) での研究部門を担当し、鼻副鼻腔粘膜や嗅粘膜の SEM 写真を用意し、また、当時取り組んでいたカラー SEM の写真を撮影しました。大山教授の発案で、SEM の特徴である立体視ができるように、宿題報告の時は、3D で発表しようということになりました。今でこそ 3D テレビも映画もありますが、日耳鼻総会での宿題報告を 3D で行うことは前代未聞でした。

SEM 写真の右目用画像と角度を変えた左目用画像の 2 枚組で撮影しなければなりません。スクリーンも通常のものでは不適切で、より立体視が容易になる反射率の優れた 3D 用スクリーンが必要でした。学会会場には当然、常備されたものではありません。「ブ

ラックスクリーン」という3D用スクリーンを新しく開発した大阪の町工場の社長さんに教授が交渉し、学会場へ運べる大きなブラックスクリーンを特注しました。打ち合わせに私も同席しましたが、東京新宿のとあるホテルのスウィートルームにブラックスクリーンを持ち込み、試写を行いました。また、立体視には専用めがねが必要です。左右で直角に交差する偏光メガネを準備するため、偏光フィルムを作成している東京虎ノ門にあるポラロイド社の担当者との連絡を取り、ホテルオークラで打ち合わせを行いました。3D用メガネを宿題報告会場に来られる日耳鼻会員全員へ配る必要があります。安価にめがねを作る必要があり、福井県鯖江市のフレームメーカーへ注文しました。その時初めて鯖江のめがねフレームが有名なのだと知りました。

宿題報告の3D発表にはもう一つエピソードがあります。せっかく3Dで発表するのだからSEM写真だけでなく、スライドの文字も3Dにとの指令が教授から出ました。今でこそパソコンで比較的簡単に3Dの文字スライドは作成可能と思いますが、当時は、とてもそのようなことはできず、なんと、発泡スチロールを削って文字を並べ、カメラで角度を変えて立体写真を撮影しました。何という労力。もちろん3Dの文字スライドは少なく限らせていただきました。

大山教授は幅広い視野で多くの学会を主催されました。国内の耳鼻咽喉科関連の学会はもちろんですが、多くの学際的な学会やシンポジウム、国際シンポジウムを主催されました。私も多くの学会に関与しましたが、私が事務局長として担当した学会に、平成元年の”KAGOSHIMA INTERNATIONAL SYMPOSIUM Mucociliary defense mechanisms and microorganisms attachment”と、平成6年の日本国際保健医療学会があります。KAGOSHIMA INTERNATIONAL SYMPOSIUMでは学会のマネジメントと共に海外の招聘講師への連絡や鹿児島での接待が大変貴重な経験となりました。大山先生の海外の研究者との交流の幅広さには驚かされました。日本国際保健医療学会では、この領域にほとんど関わりのなかった私が、保健医療学会関係者と連絡を取り、耳鼻咽喉科以外の領域での海外支援、国際救急医療など教わることの多い学会でした。大山先生の人脈の幅広さに驚きました。

臨床面では大山教授は、耳鼻咽喉科についてオールマイティーであるように指導されました。教室の研究テーマである鼻科学についてはもちろん、耳、咽頭、喉頭、頭頸部癌、すべての領域について臨床の力を付けるよう指導されました。大学では私は率先して手術に付き、多くの手術を執刀させていただきましたし、関連病院への出向も率先して行い、県立大島病院、県立鹿屋病院、国分中央病院にては多くの貴重な症例を経験しました。また、研究面では、気道上皮の感染防御機構に関する研究を行い、かなり自由な発想での研究を受け入れていただきました。鳥取大学解剖学教室への国内留学や、米国オハイオ州立大学耳鼻咽喉科・耳科学研究所 David Lim 教授のもとへの留学は大山

先生のご配慮なくしてはなかったことです。数多くの学会発表、論文発表を行い、これらのすべてが現在の私の血となり肉となり臨床の力に結びついていることは間違いありません。

大山教授の退官後には私も教室を離れ、現在の鹿児島市立病院に異動となりました。大山先生にご指導いただき大学医局に所属していた18年間よりも、現在の鹿児島市立病院の在籍年数の方が長くなりました。私も大山先生を見習い、大山先生を目標に頑張っていますが、先生は大きな存在であり超えることのできない目標だと感じています。

大山先生が亡くなられる1ヶ月ほど前に、先生が入院されていた病院へお見舞いにお伺いしました。先生は酸素投与を受けておられ声が出しづらく話も難しそうでしたので、私が一方的にお話しました。大山先生の昔のこと、私の現在の職場である鹿児島市立病院のこと、私の家族のこと、私も還暦を過ぎて定年が近くなってきたこと、定年退職後は如何でしょうかなど。先生は笑顔で時々うなずかれて、先生の表情は穏やかで大変うれしそうに見えました。

これからも大山先生にご指導いただいたことや感謝の気持ちを忘れずに、先生を見習い謙虚さを失わないよう努力したいと思います。本当に有り難うございました。大山勝先生。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大山先生に教えていただいた事

小川耳鼻咽喉科 小川 敬

大山先生、どうされていますか？先生が天国へ旅立たれたことは、いまだ受け容れることができないでいます。同門会や臨床会に行っても、どこかに先生が座っておられて、見守っていただいているような気が致します。とてもさびしく、悲しいです。

今、こうして日々の診療に打ち込めるのも先生のおかげと肝に銘じて、毎日診療させて頂いています。先生から教わった事は、たくさんあって、語り尽くせるものではありませんが、よく思い出す事を書かせていただいて先生への追悼の意を表したいと思いません。

- 1) どんな人も大事にし、相手に合わせる事。相手が教養人なら教養人として扱い、相手がヤクザ風ならヤクザチックに接する。相手が子供なら、子供らしい気持ちをもって接する。乳様突起炎で切開排膿した乳児が、私が処置をすると大泣きしたが、大山先生の手にかかるると全く泣かなかったのは衝撃的で、未熟さを痛感しました。
- 2) 頼まれた事は、すぐに実行する。たとえ昼食時であろうが、宴会の席であろうが、論文の添削をその場で気軽にさせていただいたことを懐かしく思い出します。先生は無

類のラーメン好きで、その影響で私も家族もおかげさまでラーメン好きになりました。

- 3) 分相応に。お金の無い時はそれなりに、お金に余裕のある時には、一流の服を身につける。先生は皺の寄らないスーツを着ておられると聞いたことがありますが、私はいまだにその域に達していません。
- 4) あらゆることに積極的になる。興味があつたり疑問な事は、その道のスペシャリストに直接電話して聞いてみる。ともかく、どんな事でも電話することを、おっくうがらず躊躇しないことです。
- 5) けじめをつけること。いつまでもその場所に固執してはいけない。自分の居場所をよく考えて、いるべき場所を見つけ、そこを大切にす。先生に開業の御相談をした時に「小川君は、その方がいいと思う。」とおっしゃっていただいた時ホッとしたのを覚えています。
- 6) よく学び、よく遊べ。やる時はやるということです。先生は教授になられる前、入院中にもかかわらず新潟まで研究に行かれたと聞いています。先生はよく学び、よく学べの人でした。今の私は、学びもせず、遊びもせず、反省すべき点が多いです。
- 7) 寝ながら、考える。先生はよく「昨夜、寝ながら考えたら、いいアイデアが浮かんだ。」と、うれしそうに、おっしゃってました。そのお言葉を思い出して、私も寝ながら、治療に難渋する患者様のことを考えて、ああそういう手もあった、明日は実行してみようというパターンが、おかげさまで身につきました。あきらめずに熟考すれば、必ず名案に行きつくという教えだと思えます。
- 8) 病気を形態学的にイメージして、わかり易く患者様にお話しすること。医局時代、私は形態学グループで、お仕事をさせていただきました。特にSEM（走査電子顕微鏡）画像が大好きでした。今でも患者様への説明に際し、鼻粘膜の美しい敷石状の配列や豊かな繊毛を思い浮かべながらお話ししています。SEMの世界に導いていただいた大山先生には、心から感謝致しております。

以上、他にもたくさんあると思いますが、それは他の先生にお願いして、私の駄文は、ここで終わります。つい最近、息子が部屋を整理していたら、見覚えのある照明内蔵のおもちゃの黒いフォルクスワーゲンが出てきました。「あっこれは大山先生から頂いたお宝だ！」よし、これからは、このお宝は私の院長室に飾らせていただく。偉大な大山先生と過ごした貴重な時間を大切にするために！

「疲れているのだと思った。」の一言

坂本耳鼻咽喉科 坂本邦彦

昭和55年6月、私は新進気鋭の若き大山勝先生率いる鹿大耳鼻科に、黒野祐一先生、清田隆二先生、深水浩三先生、矢野博美先生とともに入局しました。当時の私は、夜に活動する学生時代からの習性が抜けきらず、早起きがたいへんに苦手でした。入局1年目のある日のことです。当日は朝9時から大山教授の執刀による手術があったのですが、何と主治医の私は寝過ごしてしまったのです。真っ青になって9時半に手術室に駆け込みました。すでに主治医抜きで手術は始まっていました。「申し訳ありません。」と謝ると、教授は静かに「夜遅くまで仕事をしているので、疲れているのだと思った。」と、一言発せられただけでした。強烈なお叱りを受けるものと覚悟していたのにこの一言。「大山教授の下で頑張ろう。」という思いをさらに強くした瞬間でした。

平成8年3月に出身地の山口県に戻って開業した後、大山先生には2回当地にてご講演いただきました。むさくるしい我が家にも一度お立ち寄りいただきました。また、こちらで仲良くなった広大耳鼻科出身の二人の先生方（吉岡達生先生と小林優子先生）と相談して、3人でそれぞれの恩師である大山先生ご夫妻と原田康夫先生ご夫妻を旅行にご招待申し上げることとなりました。長年のご指導に感謝の意を表したいという理由での企画でした。旅先は雲仙で、一泊二日の小旅行であり、私たち3名も同行させていただきましたが、今となってはとても貴重な思い出です。

鹿大耳鼻科には、多くの先輩方、同期生、後輩諸氏が大山先生に魅かれて入局しました。いずれも素晴らしい人たちばかりで、おかげで私のように頭脳明晰でもなく、朝寝坊で要領の悪い者がこれまで何とかやって来れたのは、大山先生が築かれた環境の中に入れていただいたからこそであると、あらためて思います。この中にはいうまでもなく韓国延世大学の李廷権先生やフィンランドのMarkus Rautiainen先生との出会いも含まれます。

よき指導者に巡り合い、その指導者の下で修練を積むことがいかに重要であり、かつ幸福なことであるか。このことを実感しながらこれまでの医師としての36年を振り返ると、恩師大山勝先生にはいくら感謝申し上げてもし足りない思いが沸き上がってくるのを止めることができません。大山先生、ありがとうございます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(平成28年3月27日)

さいとう耳鼻咽喉科 齋 藤 寿

大山門下の末席に加えていただき身に余る思いです。

大山先生のスケールの大きい生き方，お人柄で，身をもって示していただいた御指導等，本当にお世話になりありがとうございました。

大山先生

飯田耳鼻咽喉科 飯 田 富美子

先生，たくさんのことを教えていただきまして大変ありがとうございました。私は，2度目の大学生となり，また子供を2人抱えての学生生活は大変でした。だけど学生生活は，とても楽しく，特に新しいことを学ぶ楽しみは大きな喜びでした。

いよいよ卒業の時になって，医局を選ぶとき大変なやみました。私の同級生たちは私と11歳違います。私から見ればまぶしい先輩の女性たちが，私に丁寧語や，敬語で話しかけてくる状態でした。これは医局に入ってから，先輩の女性医師たちに，一番迷惑をかけるとおもいました。女性の先輩医師がいない医局は耳鼻科だけなのです。教授にお会いし，歓迎しますといわれたときは，本当にうれしかったです。おかげで若い男性先輩に，いろいろ教えていただきました。

医局に入ってから，子供を抱えている私に，教授をはじめ，医局員全員が細かい心遣いをしてくださいました。いろんなことがすべて不十分な私を，寛大に，忍耐強くご指導してくださいまして，本当にありがとうございました。

医療の技術的なこと，患者さんへの接し方，相手への思いやり，また医局をまとめていく大変さ，すべて先生の研究熱心さ，御人徳で医局はしっかりまとまっていました。良き医局員時代だったなと思います。

今もいつも先生の診療時のお姿を思い浮かべながら，私も，少しでも近づけたら思いつつ，日常の診療をしております。

大変，ありがとうございました。

ご指導いただいた「人文科学」

島耳鼻咽喉科 島 哲也

生来、物書きは、大の苦手であった。大山先生に師事して、最もご苦労かけたのはSD (standard deviation) = -2クラスの私の文章下手であったろう。添削して頂いた原稿は、毎回、真っ赤であった。そこまで、手に取るように教えて頂いた。

多忙極まる先生に、相当な時間を割いて頂いた。今でも、冷や汗が出る。その原稿は私の机の一段にお宝として眠る。50センチは超えるだろう。この原稿を投稿できることも、先生の賜物である。

昭和の終わり頃。ふっと先生から「最近、文章、いいね。」との言葉をいただいた。「いつも真っ赤な添削を頂いております。御陰様です。」と答えた。「君の文体が変わったよ。よく読むようになった作家がいるでしょう。」との鋭い突っ込みであった。図星であった。当時「飛ぶが如く」が、NHK大河ドラマで放映されていた。原作の司馬遼太郎は脚光の的であった。その短い形容詞を省いた文体に、私は、魅了されていた。そして、氏の文体を真似ていた。そのことを返答した。「司馬遼太郎はいいですね。」と目を細められた。先生も、司馬氏と同じく若い日に満州で生活されたそうである。司馬文学に共感を持っておられた。

先生の教育は、旧海軍の山本五十六長官の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず、やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」そのものであった。若輩者の私が直接指導方針をお聞きするには、はばかれたが、先輩の先生からこのように志されていると伺った。自分が開業するときも、この言葉を座右の銘と心に刻んだが、その何と難しいことか。当院のスタッフをまだ、先生のように指導はできない。15年近く経っても、反省。人を教えることは難しい。

苦手な事でも、先生の指導を受けると前向き取り組んでいた。「大丈夫ですよ。」「いいですね。もっとやってみましょう。」「動けば、先がみえてきます。」先生のモットーであった。大山教室を離れて約20年。先生の言葉が耳に残っていることに感謝。地域医療へ貢献の原動力。小さなクリニックの開業業務に疲労困憊したときの応援歌。スタッフの指導に迷ったときのお手本。しかし、先生の薫陶も徐々に、うすれていくころであった。

「教育の本質は、その人が教えられたことをすべて忘れ去っても、最後にその人に残るもの」有名な欧米の教育学者の定義に接した。一理ある。我流を肯定する言葉でもある。しかし、やはり、芯が必要だ。そのような、一人問答を繰り返していたころであった。先生の訃報が届いた。教えに恩返しするときと今一度気持ちを引き締めたい。

師の教え やさしく厳し
道しるべ
至高の業と 知りし としつき

御冥福をお祈り申し上げます。

「和と情熱」

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

当院の診察室の壁には、開院以来、上記タイトルの毛筆書きの額縁が掛けてあります。医局を辞めて開業する際に、大山先生に無理にお願いして書いていただいたものです。以来21年間、この額縁の真下で患者さんに相對して参りました。

毎週月曜の朝礼の時には、折に触れこの言葉の精神を思い出すような話をしてきました。いつも背中から大山先生が見ていてくださる、そのような気持ちが常にどこかにありました。それは励みでもあると同時に、良医足るべき道を踏み外すなと言うある種の足かせや重しでもあった様に思います。

額縁を持って、家内共々、お宅にご挨拶に伺った折に、先生は少し困ったような顔をされて「少し時間をください」とおっしゃって、額縁を預かってくださいました。

その後、完成品を頂戴しましたが、何回か書き直されたとお聞きしまして、大変恐縮するとともに、本当にうれしかったのを覚えております。

開業して数年経ってから、一度だけふらりと診療所を訪ねていただきました。そして、この額縁をごらんになって、何か面はゆそうにされたのが大変印象的でした。

心の支えというのは、失ってみて初めて気づく物でございます。先生のご逝去は、まるでポディーブローのように効いてきているようです。

めげそうになるときに、後ろを振り返り、この額縁を見て気持ちを新たに
今日この頃です。

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

大丈夫ですよ

いとう耳鼻咽喉科 伊 東 一 則

「あの病理組織スライドのところはもう少し説明したほうが良いと思うので少し付け加えておきました。あとは大丈夫ですよ。」と返却された発表原稿。表紙には Very good!! と記載されているけれど、中身を見ると添削で真っ赤っか。オリジナルの文章がほとんど残っていない。初めての学会発表を前に大山教授に校閲頂いた際の一コマ。これでは始めから教授に書いてもらった方が楽だったのではないかと赤面した。予演会でも突っ込みどころ満載で先輩の先生方に有り難い指摘をいただいても、「大丈夫ですよ。」と励ましてくれる。その後、同期のノイヘレンも研究の場、臨床の場で同じようなシチュエーションに遭遇していることが明らかになるに連れ、この言葉は危機的な状況で使われるもので、教授の「大丈夫ですよ。」ほど恐ろしい言葉はないという認識が我々の中に広まっていった。そして時は流れ・・・。

話は少し飛ぶが、先日 TV でアメリカの荒れた学校を立て直し表彰された校長、リンダ・クライアット＝ウェイマンさんのスピーチを聴く機会を得た。彼女が学校改革に成功した秘訣は三つあるという。①校長はリーダーたれ ② So what? Now what? (だから何? それじゃあどうする?) = 前向き思考 ③生徒に愛を持って対応する。

彼女曰く、生徒たちが抱えているのは社会的、感情的、経済的問題だ。これを解決することは不可能に近い。過去と他人は変えられないけれど、未来は変えられる。だからこそ、それじゃあどうする? と問いかけ、今出来ることを少しずつやって行く。

ネガティブな感情が渦巻く環境で、自らが愛をもってリードすることで周囲の人々を巻き込みポジティブな思考に変えていく。そうこうするうちにその取り組みが認められ予算を獲得。スタッフの充実を図り学校の環境を徐々に改善し改革に成功したという。

縁あって数年前から障害者の支援を始め、多くのスタッフを抱える身になった今、この校長の教えは心に響く。明確なビジョンを提示しスタッフに有意義な目標設定をさせる必要性をひしひしと感じていたからである。

翻って大山先生の「大丈夫ですよ。」という言葉の中に弟子に対する愛とポジティブ思考へ誘う魔法が隠されていることに気づかされる。我々のプアーな仕事振りを見ながら、努力は認めるが未だ未だ未熟。きっと不勉強であったことに気づくであろう。恥をかいても大丈夫。一歩ずつ階段を昇っていけばいい。だからこそ大丈夫。そういうメッセージをいつも送ってもらっていたのだろう。

大山先生と過ごした時間は宝の山であり、その教えは今の私の大きな支えとなっている。私の心の中には大山先生が生きている。何一つうまくいかない状況においても、い

つも「大丈夫ですよ。」と囁いてくれる。生き方を残すというのはこういうことなのだろう。良き師に出会えた幸運は何にも代えがたい。先生の背中がますます大きく感じられる今日この頃です。

教授と二人旅 – ロンドンでの ISIAN –

まつなが耳鼻咽喉科 松 永 信 也

私は、1990年6月ロンドンで開催された ISIAN で発表する機会をいただきました。初めての海外学会での発表でした。鹿大から参加したのは、大山先生と私の二人だけでした。28年も前の事で記憶が曖昧ですが、何とか思い出せた事を書いてみました。初めての英語での発表がうまくいくか、そして大山先生に失礼が無いように過ごせるかと、とても不安な旅立ちでした。先輩方も「松永ひとりで大丈夫か？」と思っていた事でしょう。学会場兼宿泊はハイドパーク・ケンジントンガーデン近くの Royal Lancaster Hotel でした。私の発表演題は、「副鼻腔炎鼻汁が好中球活性酸素産生能へ及ぼす影響」。

英文原稿をドキドキしながら必死で読んで、質問はなく、私の発表はつつがなく（物足りなく）終わりました。大山先生がこの学会で何を発表されたかは、全く憶えてません（先生、すみません）。ロンドンの旅行パンフレットは見つかりましたが、学会のプログラム・予稿集は見つかりませんでした。確かウィンブルドンテニスの期間中でしたが、ロンドンには5泊くらいしたかと思います。大山教授とツーショットの写真が1枚だけありました（写真1）。今の時代なら自撮り棒があるのですが。この場所は何処？誰にシャッターを押しもらったのか？憶えてません。大山先生は他の大学の先生との付き合いもあるなか、1日は私と付き合い合ってくださいって、二人で列車でオックスフォードまで出かけました（写真2）。伝統ある大学の雰囲気を楽しみな



写真1



写真2

がら散策しました。昼食は、無難に中華料理店（イギリス料理はやはり美味しくない）で、まあまあ美味しい焼きそばを食べました。

ロンドンからの帰りには、オランダ留学中の花田先生を訪ねました。名古屋市立の馬場俊吉教授も一緒でした。フェルドマン教授の大学・研究室やお宅を訪ね、大堤防、風車、運河、伝統的なオラ

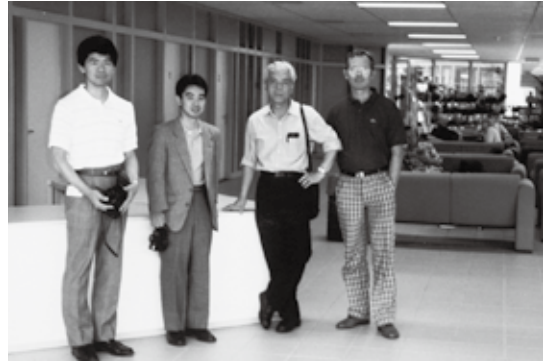


写真3

ランダ家屋などを見学しました（写真3）。私は確か花田先生宅に泊めてもらいました。多くのオランダの家の窓には、花がいっぱい飾ってありました。

日本に帰ってきて、私は初めての jet lag による頭痛でダウンしてしまい、大学を1日休みました。大山先生はもちろん平気でお元気でした。（確か flying professor と呼ばれてましたよね）。翌日オペ室で「大丈夫か？」と微笑みながら声をかけて下さいました。まだまだ修行が足りないなあ、と思われていたのではないのでしょうか。

大学を卒業して、私が耳鼻咽喉科を選んだ一番の理由は、大山先生に魅かれたからで、私の医道を決定づけたのは大山先生といっても過言ではありません。これは、たぶん私だけではないでしょう。私は、大学勤務時に不覚にも副鼻腔手術で視器損傷を起こしてしまいました。患者さんやその家族の方へ、大山先生からも説明・謝罪していただきました。賠償交渉についてもご高配頂き、一件落着する事が出来ました。その後、内視鏡下副鼻腔手術が行われ始めた頃でしたが、ソウル大学でのカダバーを使った内視鏡手術手技の講習会に参加したいとの希望を、大山先生に許可して頂き、牛飼先生と二人で韓国まで勉強に行くことが出来ました。おかげで出水市立病院勤務時代でしたが、内視鏡手術を導入して地域医療に貢献する事ができました。

私の医院では2000年に開業以来、大山先生に教えて頂いた「和と情熱」をモットーとして日々診療しており、大山先生の教えが生きております。あらためて大山先生のご冥福を心からお祈りするとともに、天国の大山先生に恥ずかしくない診療を心がけ、先生の恩に報いたいと思っています。

「大山 勝 先生 有り難うございました。」

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授
日本医科大学武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科 部長 松 根 彰 志

私が、大山勝先生に初めてお会いしたのは、講義やポリクリではなく、学生時代所属していた準硬式野球部のコンパでした。入学後、部活の顧問は当初別の教授でしたが、その先生が定年退官され後任の顧問が大山先生でした。大山先生は、私が入学した昭和53年の確か前年に耳鼻咽喉科の教授に就任されたばかりで、お若く部活のコンパにもよく出席され学生部員とも大変明るく気さくに接していただきました。入部3年目の専門1年の時に私は主務になり、立場上顧問の先生をお訪ねする機会が増え耳鼻咽喉科の医局にお伺いすることが多くなりました。まだ臨床講義も受けておらず耳鼻咽喉科学について知識はなかったのですが、医局の先生の数も増加傾向にあり右肩上がりの勢いというか活気を感じさせる教室との印象でした。だからといって当時、自分が耳鼻咽喉科医になるというイメージは特に持っていませんでした。入学6年目（専門4年）の夏休みの頃でさえ、鹿児島大学以外の耳鼻咽喉科ではない診療科の見学などに行っていました。最終的に母校の耳鼻咽喉科に入局することを決めたのは秋から冬にかけての頃だったと思います。

当時は、今のような初期研修制度は無く、卒業後すぐに希望する診療科に入局することが基本でした。私は大学院生として大山教室に入局しました。大学院生で入局したといいますが、学位と耳鼻咽喉科専門医を取得したら、郷里の大阪の病院を紹介していただきしばらくそこで働いてから開業するつもりでした。そういった感覚に変化が生じた決定的なきっかけは海外留学でした。学生時代およそ医学の勉強というものから距離のある生活をし優等生の対極にあった私の辞書に（大学院生の時でさえ）「留学」の文字はありませんでした。しかし、学位論文もだいたい形になってきました入局4年目の12月に、突然大山先生から5年目の10月から2年間アメリカのピッツバーグ大学に留学するお話をいただきました。（お金の問題など）詳細なお話をお聞きすることも無く、海外旅行にも行ったことがないところに降って湧いた「海外に2年間住める」というお話にふたつ返事で飛びついたことを覚えています。

予定どおりに、お話をいただいた翌年の10月に新婚5か月の家内と2人で渡米しました。経済的には余裕は無く質素な生活でしたが、28歳から2年間のアメリカの大学での生活はとても新鮮で刺激的でした。若い多感な時期にこういう機会をいただけたことを今でも感謝しています。ピッツバーグ大学では、耳鼻咽喉科の主任教授のマイヤーズ先生や側頭骨病理の教授の山藤勇先生、京都大学から来られていた（現、長崎大学教授

の) 高橋晴雄先生のご指導を受けることができました。そして、アメリカでの学会や研究会に出席して発表すること、それらの準備も含めた日頃の研究活動、参考文献を集めながら論文を作成する過程などこの2年間でその後の基礎になる基本的なことを教えていただきました。こうした機会を与えていただいた大山先生はじめ医局の先生方、更にはピッツバーグの先生方やスタッフには大変お世話になり有り難く思っています。この時の体験がその後の私の人生に大きく影響を与えたことは間違いありません。

実際に大山先生から医局員としてご指導をいただいたのは14年間でしたが、今この年齢になってもいまだに大学に籍を置く身として思うことは、耳鼻咽喉科学以外にも本当に多くのことを教えていただけたということです。東北で震災があった2011年3月に鹿児島大学から日本医科大学に移って現在に至っていますが、移る前、移ってからと大山先生にはお気遣いと励ましをいただけてきました。最後にお会いしてお話をお聞きすることができたのは昨年3月でした。病室で2人でしばらくお話しする機会を得ました。「こんな格好でお会いするのは恥ずかしく申し訳ない。しかし、今月いっぱい退院だ。私は大丈夫だ。」としっかりした調子で気丈に語っておられたことをその時のお顔とともに覚えています。「次回は自宅に来て下さい。」ともおっしゃってました。しかし、残念ながらそれが最後のお会いする機会となり、その次はお通夜でした。もっといろいろなご報告やご相談ができるようまだまだ長生きしていただきたいかったと今でも思っています。

私も定年まで勤めたとしても、現役の大学人として残された時間は10年をきりました。自己実現を追い求めるのみではなく、大山先生にご指導いただいたことへの感謝の気持ちをもって、現在自分の周りにいる若い先生方の成長に少しでもお役に立てるよう努力をしていきたいと思えます。大山勝先生、本当に有り難うございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

大山先生の思い出 –耳鼻科, 大山先生, そしてマイライフ–

福岡みみ・はな・のどクリニック 河野もと子

鹿大医学部を卒業し医師免許を取得して、鹿大耳鼻咽喉科医局に入局してから32年になる。いつの間にか、職業人である時間が、生まれて学校に通い教育を受けていた時間より長くなっていた。振り返ると、大山先生、そして耳鼻科との出会いが、この32年を方向づけたといえると思う。

医学部専門3年生で初めてのポリクリ(臨床実習)が耳鼻咽喉科であった。ポリクリの前から大山教授の臨床講義を受けて、お話がうまく学生の興味を刺激する講義をなさ

るかただと思っていたが、ポリクリでも、大山教授は学生を暖かく迎えてくださった。耳鼻科医がまだ鹿児島県では不足し、必要とされていると知らされたこと、甲状腺の手術の見学し頭頸部の手術にひかれたこと、そして私たちのポリクリ担当のH先生が優しく素敵だったこともあいまって、耳鼻科の印象が強く残った。その印象は、その後ほかの科のポリクリを回っても薄れることはなく、結局、卒業後耳鼻咽喉科への入局を決めた。

大山先生の教室の医局員となり、同級生たちは生化学・電顕組織生化学・生理学のいずれかの研究チームに属して、研究に頑張っていたが、私はずっと宙ぶらりんの状態だった。その後喉頭乳頭腫／パピローマウイルスの研究のチームに入るよう命じていただき、3ヶ月間ベッドフリーで、ウイルス学教室で、分子生物学的実験手法の勉強、実験をさせていただいた。さらに、牛飼先生のあとにアイオワ大学への2年半の留学もさせていただき、学術的な面で大変勉強になり、今各種研究成果を理解するのに大いに役立っていると感じるし、人間としてもとても貴重な体験をさせていただいたと思う。研究者としては論文も書かず、学位も取らず、与えられたチャンスを生かせなかったのは、私の努力不足であったと思っている。

留学から帰って、大山先生は退官され、黒野教授のもと、大学や医局の関連病院で約10年間勤務後医局を辞し、今給黎総合病院を経て、現在福岡市の個人の耳鼻咽喉科クリニックで働いている。研究者や頭頸部外科医としては一人前になれなかったが、クリニックの耳鼻咽喉科医として、他県でも一応クビにもならず仕事を続けられているのは、一人前にして下さった大山先生、黒野先生、他先輩諸先生のおかげであると思い、感謝の気持ちでいっぱいである。

大山先生ご自身は社交的で気さくな方であられたが、私のほうが人見知りで内向的なため、大山先生に物おじせずお話しできたことはなかったように思う。しかし、大山先生は、私が医局員であった時も、退官されてからも、いつでも少し距離をおいたところから、あたたかなまなざしをもって、見守ってくださっていた気がする。医局員時代は、医局全体を引っ張りあげることで、指導していただき、時には留学の時など背中をおして下さった。退官されてからも、時折優しい言葉をかけてくださって、見守っていただいていると感じられた。大山先生がご逝去され、さびしい限りであるが、鹿児島大学の耳鼻咽喉科医局出身であることの名前を汚さぬよう、これからも勉強を続け、しっかり与えられた役割を果たし仕事していきたいと思う。

私の近況と大山先生との思い出

松崎 信行

横浜に住んでいた私は、父から大口には将来、耳鼻科の開業医がいなくなるから是非にと説得され、耳鼻科に決めた経緯がある。後年、わかった事だが父は元々、耳鼻科医になりたかったところ、家の事情でなれず、息子に自分の夢を託したかったらしいのである。

鹿児島に帰ってきて、大山先生に初めて会ったのは、先生の御自宅に伺ったのが最初で、それまで面識はなかった。先生は快く迎えてくれて、先生の元ならという気持ちになれた。

医局に入ってから先生はやさしく接して下さり、とりわけ、父の病気（肺癌の末期だった）判明の際は、微に入り細にわたり世話になった。当時、私と同じように父が肺癌である内科の Dr. がいたがその Dr. は医局から帰る事を許されなかった。恐る恐る、大山教授におうかがいをたてた所、父の診療所代行をする事を快諾され、また貴重な助言までして下さった。そのおかげで一時期ではあったが父と一緒に仕事をして曲がりなりにも親孝行が出来た事は、先生に感謝しても感謝しきれない思いでいっぱいである。

私は、昨年の4月に紆余曲折はあったものの伊佐市初の認定子ども園を設立した。伊佐市における人口は、発足当初3万を超えていたが、現在は2万8千人ぐらいである。ご多分に漏れず年々減少の一途をたどっており、少子高齢化も進み、学校の統廃合も現実味を帯びている昨今である。そんな状況ではあるが実はこんな田舎でさえも待機児童が潜在的に存在しているのである。

始めた当初は、3号認定児（0～2才児のこと）が当然少なかったわけだが知られるにつれ、今は定員をオーバーしている状態である。「保育園落ちた」の匿名ブログで待機児童問題がクローズアップされ、関心が急速に高まったが当園でも実際入れられずに泣かれた保護者もいたりした。

職員数も当初より2倍に増加したが、それでも保育士不足で困っている。ここ数年、発達障害児が多く（この地域だけ？）その児童には1人つきっきりになるのでそれが背景としてあるかも知れない。

とにかく、2足のわらじをはきながら、あっという間に1年が過ぎた感があった。

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

【論文】

内菌明裕：思春期の頭頸部痛に対する四逆散エキス顆粒（TJ-35）の効用について。
痛みと漢方25：53-57, 2015.

内菌明裕：抗インフルエンザ薬投与後の臨床経過についての検討。
耳鼻感染症・エアロゾル3：76-80, 2015.

【学会・講演会その他】

第22回日本東洋医学会鹿児島県部会学術講演会 平成27年2月8日（鹿児島市）
テーマ別研究会「耳鳴・耳鳴りを治す」耳鼻咽喉科の立場から

周南耳鼻咽喉科勉強会 平成27年2月19日（周南市）
「難治性中耳炎に対する治療戦略」

第66回日本東洋医学会総会学術講演会 平成27年6月12日（富山市）
「外来における方剤の即時内服の効果について」

第28回疼痛漢方研究会 平成27年7月11日（東京都）
「疼痛患者における栄養状態評価の有用性」

第4回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 平成27年9月3日（札幌市）
シンポジウム 「微生物学的検査のピットフォールー的確な感染症診断ー
3. 迅速抗原検査では何がわかるか？」

第31回耳鼻咽喉科漢方研究会 平成27年10月24日（東京都）
「犬吠性咳嗽に対する柴陷湯の効果」

熊本漢方医学セミナー 平成27年10月29日（熊本市）
「耳鼻咽喉科の漢方療法」

いとう耳鼻咽喉科 伊 東 一 則

【講演会】

第40回臨床家フォーラム かごしまフォーラム2015 平成27年7月19日～20日（鹿児島市）
「明日からできる超簡単禁煙治療～「禁煙するなら耳鼻科」をめざして～」

江川耳鼻咽喉科 江 川 雅 彦

【講演会】

第40回臨床家フォーラム かごしまフォーラム2015 平成27年7月19日～20日（鹿児島市）
「認知症と嗅覚障害, アロマセラピー」

Ⅲ. 教室来訪者

教室来訪者（平成27年4月～平成28年3月）

6月 島根大学医学部耳鼻咽喉科教授 川内 秀之

6月 特定医療法人祐愛会織田病院耳鼻咽喉科 小宗 静男

6月 熊本大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 湯本 英二

1. 共催の講演会

1. 第105回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成27年4月16日
 一般演題：「嗄声に対する外科的治療」
 牧瀬 高穂（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「小児睡眠時無呼吸症候群の up to date」
 宮下 圭一（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 特別講演：「嚥下障害の治療」
 東北大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 香取 幸夫 先生

2. 第21回南九州上気道感染症臨床懇話会 平成27年5月14日
 パネルディスカッション
 「鼻性頭蓋・眼窩内感染症に対する治療」
 宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 林 多聞 先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）
 特別講演：「鼻副鼻腔疾患とNO（一酸化窒素）」
 広島大学大学院 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学
 教授 平川 勝洋 先生

3. 第40回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成27年6月13日
 一般演題：「セツキシマブ放射線併用療法を行った16例における効果と有害事象の検討」
 永野広海, 宮本佑美, 地村友宏, 井内寛之, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂,
 川島雅樹, 宮下圭一, 原田みずえ, 黒野祐一（鹿児島大学病院
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「ヒト中耳粘膜上皮におけるムチン産生に対するマクロライドの効果」
 原田みずえ（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「鼻翼に発生したグロームス腫瘍の1症例」
 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）
 野元三治（鹿児島医療センター 臨床病理科）
 「経過中急速増大を認め、悪性腫瘍が疑われた石灰化上皮腫症例」
 林 多聞, 高木 実, 奥田 匠, 花牟禮 豊（鹿児島市立病院
 耳鼻咽喉科）

「刈払機の騒音について」

清田 隆二（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

特別講演：「ウイルス性顔面麻痺－病態と後遺症の為の新たな克服－」

名古屋市立大学医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

村上 信五 先生

4. 第106回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成27年10月22日

一般演題：「気道病変を伴った Stevens-Johnson 症候群の1例」

馬越 瑞夫（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「孤立性蝶形骨洞病変の検討」

宮下 圭一（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

特別講演：「免疫アレルギー学からみた上気道炎症－好酸球性鼻副鼻腔炎の疑問－」

滋賀医科大学 耳鼻咽喉科 教授 清水 猛史 先生

5. 第107回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成27年11月5日

特別講演1：「音声外科手術 up to date」

熊本大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講師 讃岐 徹治 先生

特別講演2：「喘息に関与する鼻・副鼻腔疾患

～アレルギー性鼻炎と好酸球性副鼻腔炎～

北海道大学病院 耳鼻咽喉科 診療准教授 中丸 裕爾 先生

6. 第108回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成28年1月23日

特別講演1：「アレルギー性鼻炎と神経～古くて新しい話～」

東京大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 講師 近藤 健二 先生

特別講演2：「小児の睡眠時無呼吸症候群 Update 2016」

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 中田 誠一 先生

7. 第109回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成28年2月18日

特別講演1：「内科から見た花粉アレルギー」

福岡病院 アレルギー科 岸川 禮子 先生

特別講演2：「難聴の遺伝子診断 ～日常診療での活用～」

信州大学医学部 耳鼻咽喉科 教授 宇佐美 真一 先生

2. 第18回さくらじまフォーラム

本フォーラムは下記内容で開催された。

日 時：平成27年12月10日（木）18：45～21：00

会 場：鹿児島サンロイヤルホテル 3階「杉の間」

講演内容

総合司会 鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 講師 大堀 純一郎 先生

【症例検討】

司会 鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科 部長 花牟禮 豊 先生

1. 「血腫腫が疑われた鼻出血症例」

鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教 原田 みずえ 先生

2. 「出血性鼻茸を疑った症例」

鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科 科長 林 多聞 先生

3. 「鼻腔肉芽種性病変を認めた3症例」

国立病院機構鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 医長 吉福 孝介 先生

【How I do it ?】

テーマ：外耳炎

鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教 宮下 圭一 先生

【特別講演】

「鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版 改定にむけて」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 黒野 祐一 先生

今年、症例検討では時に診断に非常に難渋する鼻腔内腫瘍の症例を3施設から発表いただいた。How I do itでは、宮下先生に豊富な臨床症例とともに、外耳炎、外耳道真菌症、外耳道癌、頭蓋底骨髄炎（悪性外耳道炎）まで詳細に解説していただいた。特別講演では、鼻アレルギーガイドラインの改定にむけてガイドライン作成に当たり問題になった点を詳細に解説いただき、2016年版のガイドラインの一步進んだ理解に非常に役立つ講演となった。

3. 第15回「鼻の日」市民講座

日 時：平成27年8月8日土曜日

場 所：プラザN4階ヴァリエホール（鹿児島市武1-4-2）

講演内容

司会 鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 永野広海 先生

①鼻のやくわりについて

鹿児島大学病院 教授 黒野祐一先生

②においのしくみと嗅覚障害

鹿児島大学病院 地村友宏先生

③副鼻腔炎（ちくのう症）の最近の話題

鹿児島大学病院 原田みずえ先生

今回は、上記のテーマについて各々の先生方が丁寧に解説され、盛会であった。

4. 第9回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座

日時：平成28年3月5日（土）13：00～14：10

場所：鹿児島市勤労者交流センター

講演内容

1) 知っておくと役に立つ！補聴器の知識あれこれ

大堀純一郎先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

2) めまい・ふらつきにどう対処する？

原田みずえ先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

3) アレルギー性鼻炎の最新治療戦略

宮之原郁代先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

開催後のアンケート結果

参加人数35名 回収数 30枚

年齢構成

30代 1名 40代 0名 50代 3名
 60代 9名 70代 11名 80代 4名 無回答 2名

性別

女性 13名 男性 11名 無回答 6名

1. どのようにして、今回の講座について知りましたか。

新聞 3名 病院内のポスター 3名 友人・知人からの紹介 2名
 案内のハガキ 22名

2. どの講演を目的に受講しましたか。※重複回答あり

補聴器の知識 14名 めまい・ふらつき 16名 アレルギー性鼻炎 20名

3. 講演を聴こうと思ったきっかけは？※重複回答あり

聞こえに不自由を感じているから 8名 自分の健康管理 22名
 家族の病気を心配して 5名

4. 講演内容はいかがでしたか。

わかりやすかった 24名 わかりにくい 1名 無回答 5名

5. 講演時間、日程についてお聞きします。※重複回答あり

講演時間： もっと長く 6名 ちょうどよい 18名 無回答 6名

日 程： 土曜午前が良い 4名 土曜午後が良い 23名

日曜午前が良い 0名 日曜午後が良い 1名 無回答 3名

6. これまでに参加されたことはありますか？

はじめて 8名 2回目 2名 3回目以上 20名

平成28年1月16日（土）鹿児島県医師会館 中ホールにて「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会総会ならびに学術講演会」が開催された。同門会の参加者は、同門会会員総数111名中36名（委任状42名）で山本誠同門会会長の司会で進められた。総会では平成27年度の会計報告，事業報告，平成28年度の事業予定，予算案について報告されいづれも総会にて承認された。

学術講演会は以下のプログラムで開催された。羽藤先生の講演では鼓膜振動の詳細な解析からいかに伝音再建を効率よく行うべきかという臨床への応用をわかりやすく解説いただいた。今後の手術にすぐにも役立つ情報が盛りだくさんの講演で非常にためになった。

一般演題

座長 花牟禮 豊先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

1. 「スギ花粉症患者の咽頭痛・咳～抗原粒子径についての一考案～」

清田 隆二（清田耳鼻咽喉科 院長）

2. 「大量出血により循環不全を起こした重症遺伝性出血性末梢血管拡張症

（オスラー病）の治療経験」

西元 謙吾，吉福 孝介，松崎 勉（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

3. 「診断に苦慮した青年期発症川崎病の一例」

積山 幸祐（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

4. 帰国報告

「樹状細胞をターゲットとした粘膜免疫アジュバントを用いた

既存抗体再賦活化作用について」

大堀純一郎（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

特別講演

座長 黒野 祐一 先生（鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授）

「新しい鼓室形成術の考え方」

愛媛大学医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授 羽藤 直人 先生



鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成28年1月16日 於 県医師会館

1. 学校保健（統計報告）

平成27年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学学校検診を行った。

【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，屋久島町，松山町（志布志市），財部町（曾於市），大崎町（曾於市），輝北町（鹿屋市）

【受診者数】

小学生 4,357名，中学生 2,349名

【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大 の9疾患

【結果】

疾患別有病率は、ここ数年の傾向どおり鼻アレルギーが圧倒的に多く、耳垢栓塞、慢性副鼻腔炎の順であった（図1）。学年別耳疾患有病率では低学年で耳垢栓塞が多かった。（図2）。学年別鼻疾患有病率では、鼻アレルギーが小5、6年で高い傾向であったが、他学年では同程度であった。（図3）。学年別扁桃疾患有病率は、中1で扁桃肥大の有病率が高かった（図4）。

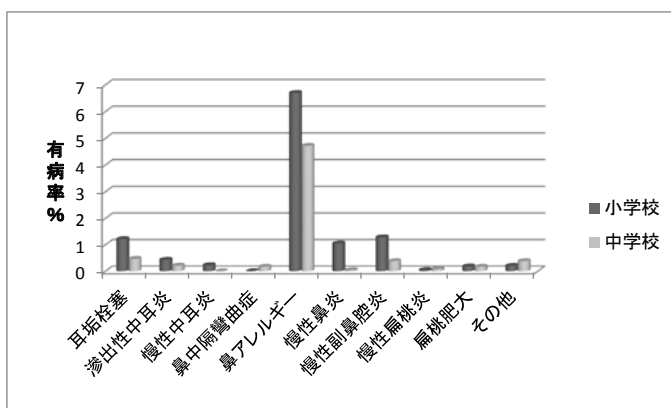


図1 疾患別有病率

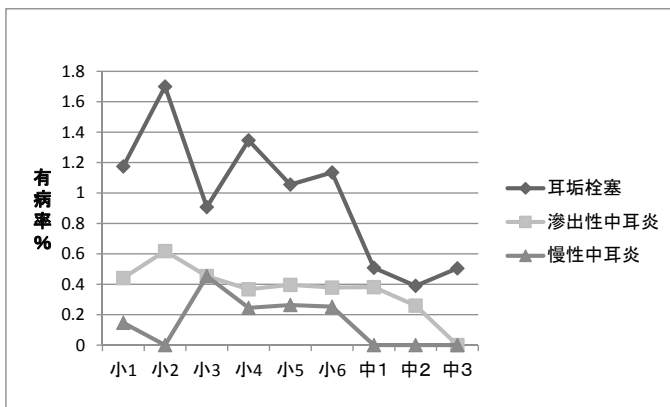


图2 学年別耳疾患有病率

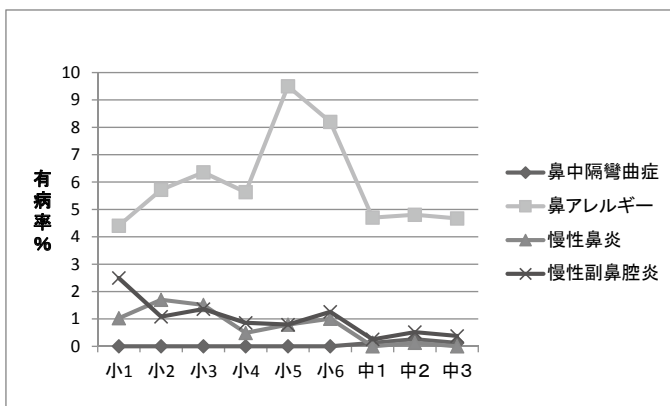


图3 学年別鼻疾患有病率

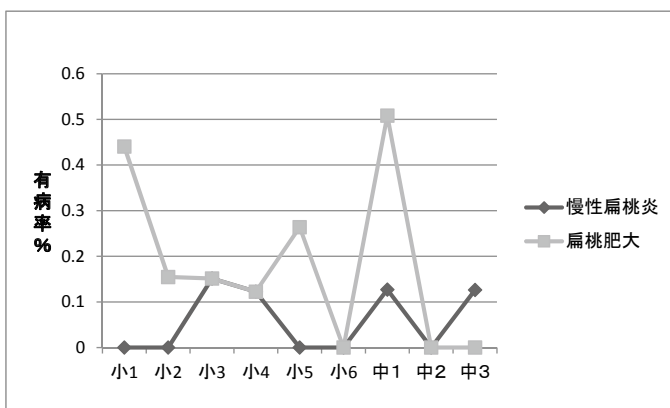


图4 学年別扁桃疾患有病率

難聴・耳鳴・めまい外来

宮之原 郁 代

いつも貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。

新生児から高齢者まで幅広い年齢層の聴覚、平衡覚に関する病態について、柔軟に対処していけるよう日々研鑽を重ねております。小児難聴の精査、難聴の遺伝子診断、人工内耳候補者選定、術後の（リ）ハビリテーション、補聴器フィッティング、TRT療法などを中心に診療しております。

小児難聴に関しては、例年と大きな変化はなく、ハイリスク症例の難聴精査の依頼と新スク後の精査目的で来院する患者さんが30-40例／年で推移しています。聴力レベルの評価はもとより、原因検索として遺伝子診断、CT/MRIによる画像診断を組み合わせで行っています。

難聴の遺伝子診断については、成人の難聴症例についての問い合わせや精査依頼も多くあります。2015年に難病に指定された若年発症型両側感音難聴に関する問い合わせも微増しています。患者さん自身がインターネットで調べて耳鼻科以外からの紹介で来院されることもあります。病歴聴取、家系図の作成、さらに検査前後のカウンセリングと、とても時間がかかるのですが、個々の症例に応じてきめ細やかに対応したいと思っています。患者さん自身に、検査の意義、目的、メリット、デメリットなど十分理解して頂く必要がありますので、とくに検査前のカウンセリングに時間かけるようにしています。2015年8月には次世代シーケンス法が導入され、19遺伝子154変異を調べることができるようになっており、診断率も上がってきています。

ABR件数は、84件で、およそ80%は乳幼児・小児難聴の診断目的で行っていますが、それ以外には身体障害者診断書・意見書作成に関連した成人難聴症例などが含まれています。2015年4月に、聴覚障害2級の申請が変更になってから後者の患者さんの紹介がやや増加傾向となっています。

めまい症例については、77例について前庭機能検査を行いました。施設の特徴から、聴神経腫瘍の症例を多く診察しています。つぎに目立つのが昨年と同様の傾向で、高齢者のめまい症例です。実際精査した77例のうち、約50%が60歳以上の症例でした。高齢者では複数の要因が病態に関与していることもあり、診断に苦慮する症例も多いのですが、精査ののちは前検カンファレンスを経て、情報提供とともに紹介医へお返ししますので引き続き連携をよろしく願います。

補聴器外来（補聴器フィッティング）、耳鳴外来（TRT療法）はそれぞれ23名、18名の新患で、例年と同様の推移でした。

病理集計

2015.4月～2016.3月

入院
外来（対診含む）
総施行件数

件数
360
279
639

腫瘍疾患

	悪性	件	良性	件
喉頭腫瘍	SCC	31	squamous papilloma	5
	basaloid SCC	2		
甲状腺腫瘍	papillary carcinoma	6	adenomatous goiter	2
	follicular carcinoma	1	degenerated follicular adeoma	1
	poorly differentiated carcinoma	1		
	metastasis of renal cell clear cell carcinoma	1		
上咽頭腫瘍	lymphoepithelial carcinoma	2		
中咽頭腫瘍	SCC	18	squamous papilloma	6
下咽頭腫瘍	SCC	35	squamous papilloma	3
舌腫瘍	SCC	7		
口腔腫瘍	SCC	10		
口腔底腫瘍	SCC	4		
歯肉腫瘍	SCC	5		
上顎洞腫瘍	SCC	8	inverted papilloma	1
	small cell carcinoma	1		
篩骨洞腫瘍	SCC	1		
蝶形骨洞腫瘍	SCC	1		
鼻腔腫瘍	malignant melanoma	1	inverted papilloma	3
外鼻腫瘍	SCC	2		
耳下腺腫瘍	mucoepidermoid carcinoma	5	Warthin tumor	20
	carcinoma	1	pleomorphic adenoma	13
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	basal cell adenoma	6
	acinic cell carcinoma	1	lymphoepithelial cyst	3
顎下腺腫瘍	salivary duct carcinoma	1	pleomorphic adenoma	2
	SCC	1		
頸部腫瘍	SCC	1	lipoma	4
			schwanoma	3
			median cervical cyst	3
			epidermal cyst	1
			branchial cyst	1
			carotid body paraganglioma	1
外耳腫瘍	SCC	1		
顔面腫瘍			schwanoma	1
原発不明	SCC	1		
悪性リンパ腫 (non-Hodgkin)	diffuse large Bcell lymphoma	7		
	follicular lymphoma	1		
	病理分類不明	7		
合計		165		79

2015年度 手術実績 (2015. 4. 1～2016. 3. 31)

	術式	件数	術式	件数	
耳	鼓室形成術 (乳突洞削開術含む)	13	口腔 口腔底悪性腫瘍手術	3	
	鼓膜チューブ留置術	6	頬粘膜腫瘍摘出術	2	
	鼓膜切開術	4	舌悪性腫瘍手術	1	
	鼓膜形成術	4	白後部腫瘍摘出術	1	
	耳介腫瘍摘出術	1	硬口蓋腫瘍切除術	1	
	先天性耳瘻管摘出術	1	下顎歯肉部分切除術	1	
	アブミ骨手術	1	甲状腺 甲状腺部分切除術	9	
	顔面神経減圧手術	1	甲状腺全摘	1	
鼻	鼻内視鏡下副鼻腔手術 (ESS)	61	唾液腺 耳下腺部分切除術	25	
	鼻中隔矯正術	5	顎下腺摘出術	9	
	上顎洞試験開洞	2	耳下腺全摘	1	
	鼻前庭嚢胞摘出術	1	顎下腺唾石摘出術 (口内法)	1	
	眼窩吹き抜け骨折靱血の整復術	1	舌下腺摘出術	1	
	上顎骨良性腫瘍摘出術	1	頸部 頸部郭清術	30	
	上顎全摘出術	1	リンパ節摘出術	9	
	上顎部分切除術	1	頸部腫瘍摘出術	5	
咽頭	口蓋扁桃摘出術	60	側頸嚢胞摘出術	3	
	アデノイド切除術	11	正中頸嚢胞摘出術	2	
	食道直達鏡検査	11	頸動脈小体腫瘍摘出術	1	
	下咽頭腫瘍摘出術 (ESD)	11	気管・食道 気管切開術	19	
	喉頭・下咽頭腫瘍手術 (TOVS)	9	気管孔狭窄拡大術	2	
	咽頭瘻閉鎖術	5	気管孔閉鎖術	1	
	中咽頭腫瘍手術	3	気管支異物摘出術	1	
	咽頭異物摘出術	3	食道異物摘出術	1	
	扁桃摘術後出血止血術	2	食道狭窄拡張術	1	
	下咽頭梨状陥凹瘻管摘出術	1	再建 遊離空腸	8	
	咽頭狭窄開大術	1	前腕皮弁	3	
	咽頭皮膚瘻造設術	1	前胸皮弁	2	
	喉頭	LMS	32	大胸筋皮弁	1
		咽頭・喉頭・頸部食道全摘	12	DP皮弁	1
喉頭全摘出術		7	合計	364	

(平成28年3月現在)

文部科学省科学研究費

基盤研究 (C)

ホスホリルコリンを用いた多機能性粘膜ワクチンの開発

研究代表者 黒野 祐一

1. 原 著

- (1) 宮之原郁代, 宮下圭一, 原田みずえ, 間世田佳子, 井内寛之, 馬越瑞夫, 川畠雅樹, 黒野祐一
新たに開発したオンラインシステムを用いたスギ花粉症患者QOL調査の試み
症例登録の工夫と今後の展望－
耳鼻と臨床 61(2): 41-48, 2015
- (2) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 川俣洋生, 大園ゆかり, 内宮礼嗣
当科で経験したセツキシマブ投与症例の重篤な副作用と Infusion Reaction 発現時
の対応
耳鼻と臨床 61(1): 1-4, 2015
- (3) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉
頸部リンパ節結核の6例
耳鼻と臨床 61(2): 35-40, 2015
- (4) 宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一
内視鏡下経上顎洞法で翼口蓋窩の操作を行った若年性血管線維腫例
耳鼻臨床 108(5): 347-352, 2015
- (5) 川畠雅樹, 宮下圭一, 黒野祐一
悪性外耳道炎に伴った頭蓋底骨髓炎の2例
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌 3(2): 102-107, 2015
- (6) M.Harada, Y.Kurono
Production of Mucin and Effects of Macrolides in Human Middle Ear Epithelia
Proceeding of Airway Secretion Research (16): 23-26, 2015
- (7) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 牛飼雅人
頸部悪性リンパ腫による神経調節反射性失神の1症例
日本耳鼻咽喉科学会会報 118: 776-781, 2015

- (8) 原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一
 初期症状として急性喉頭蓋炎様の所見を呈した悪性リンパ腫の一例
 喉頭 27(1): 34-38, 2015
- (9) 永野広海, 黒野祐一
 巨舌とオトガイ下腫脹を契機に発見された全身性アミロイドーシス例
 耳鼻臨床 108(8): 649-655, 2015
- (10) 永野広海, 地村友宏, 宮本佑美, 井内寛之, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂, 川島雅樹,
 黒野祐一
 セツキシマブ治療におけるインフュージョン・リアクション軽減の試み
 日本口腔・咽頭科学会 28(2): 183-186, 2015
- (11) 永野広海, 馬越瑞夫, 地村友宏, 黒野祐一
 気道病変を伴った Stevens-Johnson 症候群例
 日本口腔・咽頭科学会 28(2): 211-217, 2015
- (12) 永野広海, 井内寛之, 川島雅樹, 黒野祐一
 前斜角筋より発生したデスマイト例
 耳鼻臨床 108(11): 845-850, 2015
- (13) 永野広海, 宮本佑美, 井内寛之, 地村友宏, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂, 川島雅樹,
 宮下圭一, 原田みずえ, 宮之原郁代, 黒野祐一
 頭頸部癌に対するセツキシマブ併用放射線療法における急性有害事象
 - 放射線単独および他の化学放射線療法との比較検討 -
 耳鼻臨床 108(12): 945-950, 2015
- (14) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 松下茂人
 上顎癌に対する化学放射線併用療法中に Stevens-Johnson syndrome を発症した症例
 日本耳鼻咽喉科学会会報 118: 1436-1442, 2015
- (15) 西元謙吾, 馬越瑞夫, 吉福孝介, 松崎 勉, 野元三治
 耳鼻咽喉科領域における単クローン性形質細胞性腫瘍 (髄外性形質細胞腫) の臨床
 的検討

耳鼻と臨床 61(6) : 223-229, 2015

- (16)永野広海, 馬越瑞夫, 地村友宏, 黒野祐一

セツキシマブ併用放射線治療中の誤嚥から生じた急性呼吸促進症候群例

耳鼻臨床 109(3) : 203-209, 2016

- (17)牧瀬高穂, 大堀純一郎, 宮下圭一, 井内寛之, 黒野祐一

高齢者の舌部分切除術におけるPGAシートの有用性

耳鼻臨床 108(9) : 709-712, 2015

- (18)永野広海, 宮本佑美, 地村友宏, 井内寛之, 黒野祐一

翼口蓋窩から蝶形骨洞に腫瘤形成を認めた成人T細胞白血病例

耳鼻臨床 108(10) : 775-781, 2015

- (19)H. Nagano, Y. Kurono

Transcutaneous immunization with phosphorylcholine induces antigen-specific mucosal and systemic immune responses in BALB/c mice.

Auris Nasus Larynx 42(6): 478-482, 2015

- (20)K. Masuyama, M. Goto, S. Takeno, N. Ohta, M. Okano, A. Kamijo, M. Suzuki, T. Terada, D. Sakurai, S. Horiguchi, K. Honda, S. Matsune, T. Yamada, M. Sakashita, A. Yuta, T. Fuchiwaki, I. Miyano, T. Nakayama, Y. Okamoto, S. Fujieda

Guiding principles of sublingual immunotherapy for allergic rhinitis in Japanese patients.

Auris Nasus Larynx 43(1): 1-9, 2016

- (21)M. Kawabata, M. Umakoshi, T. Makise, K. Miyashita, M. Harada, H. Nagano, J. Otori, Y. Kurono
Clinical classification of peritonsillar abscess base on CT and indications for immediate abscess tonsillectomy

Auris Nasus Larynx 43(2): 182-186, 2016

2. 総 説

(1) 黒野祐一

花粉症の実地診療

日常実地診療の基本とその活用

治療のポイント－治療指針と薬の選びかた－

Medical Practice 32(4) : 566-572, 2015

(2) 鈴木賢二, 黒野祐一, 池田勝久, 渡辺 彰, 花木秀明

第5回耳鼻咽喉科領域感染症臨床分離菌全国サーベイランス結果報告

耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル 3(1) : 5-19, 2015

(3) 黒野祐一

特集 咳を聴きとり, 咳を止める

「随伴症状と咳：診断アプローチを理解する」後鼻漏を伴う咳を見た際には？

総合診療 25(5) : 472-475, 2015

(4) 川島雅樹, 黒野祐一

特集 耳鼻咽喉科薬物療法2015

耳鼻咽喉科の疾患・症候別薬物療法 外耳炎

JOHNS 31(9) : 1178-1179, 2015

(5) 黒野祐一

総合アレルギー専門医とガイドライン－アレルギー性鼻炎－

アレルギーの臨床 35(9) : 839-843, 2015

(6) 黒野祐一

特集② 今また結核を見直す

頸部リンパ節結核

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 87(9) : 742-747, 2015

(7) Kenji Suzuki, Yuichi Kurono et al

Surveillance

Nationwide surveillance of 6 otorhinolaryngological infectious diseases and

antimicrobial susceptibility pattern in the isolated pathogens in Japan
Journal of Infection and Chemotherapy 21: 483-491, 2015

(8) 黒野祐一

鼻アレルギー診療ガイドライン－通年性鼻炎と花粉症－2013年版（改訂第7版）
耳鼻咽喉科医以外の医師のための活用方法
アレルギー 64(9)：1205-1209, 2015

(9) 黒野祐一

扁桃周囲膿瘍のエビデンスに基づいた治療法は？
EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療 2015-2016. (編) 池田勝久, 他
中外医学社, 東京, PP333-338, 2015

(10) 黒野祐一

特集：アレルギー診療のトータルアプローチ
総合アレルギー専門医に求められる耳鼻咽喉科領域
喘息 28 (2)：66-70, 2015

(11) 黒野祐一

季節性アレルギー性鼻炎と周辺疾患 II. 抗ヒスタミン薬の効果耳鼻咽喉科から
アレルギー・免疫 23(1)：30-35, 2016

3. 国内学会発表

(1) 特別講演

三重アレルギーフォーラム 平成27年4月23日（津市）
「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」
黒野祐一

第27回岡山アレルギーを考える会 平成27年6月26日（岡山市）
「アレルギー性鼻炎における好酸球の役割」
黒野祐一

熊本大学医学部4年生講義 平成27年7月1日（熊本市）

「上気道感染・アレルギーと粘膜免疫」

黒野祐一

大分大学医学部臨床講義 平成27年7月7日（大分市）

「口腔・咽頭癌」

黒野祐一

鳥根大学医学部講義 平成27年7月15日（出雲市）

「鼻科領域の疾患と治療」

黒野祐一

第40回臨床家フォーラム かごしまフォーラム2015

平成27年7月19日～20日（鹿児島市）

「扁桃に関する最近の話題」

黒野祐一

第31回筑後地区耳鼻咽喉科専門医会講演会 平成27年8月22日（久留米市）

「急性喉頭蓋炎・扁桃周囲膿瘍の診断と治療」

黒野祐一

第13回札幌耳鼻咽喉科疾患研究会 平成27年9月5日（札幌市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

愛知県耳鼻咽喉科医会（三河地区研修会） 平成27年9月12日（豊橋市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

鹿児島市内科医会学術講演会 平成27年9月24日（鹿児島市）

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診断と治療における留意点」

黒野祐一

西播地区耳鼻咽喉科講演会 平成27年9月30日（姫路市）
 「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

第29回日本臨床内科医学会 平成27年10月12日（熊本市）
 「急性上気道感染症の診療における留意点」
黒野祐一

第89回佐賀耳鼻科カンファレンス～第1回耳鼻咽喉科アレルギーカンファレンス～
 平成27年10月29日（佐賀市）
 「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

第43回沖縄県耳鼻咽喉科医会講演会 平成27年11月7日（那覇市）
 「アレルギー性鼻炎の診療における留意点～ガイドライン改訂への提言～」
黒野祐一

第52回周南耳鼻科医会 平成27年11月12日（周南市）
 「上気道感染症の病態と治療～免疫学的考察～」
黒野祐一

第4回鹿児島頭頸部癌化学療法研究会 平成27年11月25日（鹿児島市）
 Session
 「鹿児島県下における頭頸部癌化学療法の治療選択について」
宮下圭一

高知アレルギー性鼻炎セミナー 平成27年11月26日（高知市）
 「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

熊本アレルギーカンファレンス 平成27年12月2日（熊本市）
 「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

第78回富山県耳鼻咽喉科臨床研究会 平成27年12月17日（富山市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

第23回 東海耳鼻咽喉科生体防御研究会 平成28年1月9日（名古屋市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

第21回多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会 平成28年1月21日（東京都）

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」

黒野祐一

熊本 ENT 学術講演会 平成28年2月6日（熊本市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

東彼杵郡医師会火曜会 生涯教育講座 平成28年2月9日（長崎市）

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」

黒野祐一

第24回九州アレルギー講習会 平成28年2月20日（福岡市）

「耳鼻咽喉科のアレルギー疾患における最近の話題

－鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版改訂のポイント－」

黒野祐一

松永沼隈筑医師会講演会 平成28年2月24日（福山市）

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」

黒野祐一

第12回信越耳鼻咽喉科セミナー 平成28年2月26日（旭川市）

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

北海道耳鼻咽喉科アレルギー講習会 平成28年3月19日（札幌市）
「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

(2) ランチョンセミナー

第54回日本鼻科学会総会・学術講演会 平成27年10月1日～3日（広島市）
「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」
黒野祐一

(3) 一般

第27回日本喉頭科学会総会・学術講演会 平成27年4月9日～10日（東京都）
「喉頭結核症例における喉頭病変の検討」
牧瀬高穂, 黒野祐一
「喉頭乳頭腫の臨床的検討」
井内寛之, 永野広海, 牧瀬高穂, 黒野祐一

第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成27年5月8日～9日（軽井沢）
「小児上顎洞性後鼻孔ポリープ13症例の検討」
宮本佑美, 井内寛之, 黒野祐一

第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成27年5月20日～23日（東京都）
「アレルギー性舌下免疫療法に関する医師の意識調査の検討」
宮之原郁代, 宮下圭一, 原田みずえ, 黒野祐一, 岡本美孝
「顎関節症により両側口蓋扁桃摘出術施行時の術野展開が困難であった1症例」
吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉
「鼻中隔 lipomatous hamartoma の1例」
積山幸祐, 黒野祐一
「セツキシマブ放射線併用療法を行った16例における効果と有害事象の検討」
永野広海, 宮本佑美, 地村友宏, 井内寛之, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂, 川畠雅樹,
宮下圭一, 原田みずえ, 黒野祐一
「扁桃周囲膿瘍に対する即時膿瘍扁桃摘出術の適応について」
川畠雅樹, 井内寛之, 馬越瑞夫, 大堀純一郎, 黒野祐一

第64回日本アレルギー学会学術大会 平成27年5月26日～28日（東京都）

「小児アレルギー性鼻炎における治療の実態について

－患者アンケート調査からみえてくるもの－

宮之原郁代, 牧瀬高穂, 黒野祐一, 岡本美孝

第39回日本頭頸部癌学会 第4回アジア頭頸部癌学会

平成27年6月3日～6日（神戸市）

「耳下腺唾液腺導管癌6例の治療成績に関する検討」

馬越瑞夫, 永野広海, 宮下圭一, 黒野祐一

「上咽頭癌10例の臨床的検討」

井内寛之, 黒野祐一

第77回 耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会

平成27年6月25日～26日（浜松市）

「PFAPA 症候群の1例」

積山幸祐, 嶽崎智子, 黒野祐一

「眼窩蜂窩織炎を発症した篩骨洞神経鞘腫の1例」

宮下圭一, 馬越瑞夫, 地村友宏, 黒野祐一

「巨舌とオトガイ下腫脹を契機に診断された全身性アミロイドーシス例」

永野広海, 黒野祐一

「血管内治療によって止血しえた蝶形骨洞内内頸動脈瘤破裂による鼻出血例」

牧瀬高穂, 黒野祐一

第30回九州連合地方部会学術講演会 平成27年7月11日～12日（熊本市）

「喉頭乳頭腫の臨床的検討」

井内寛之, 永野広海, 牧瀬高穂, 黒野祐一

「中咽頭紡錘細胞癌の一例」

地村友宏, 宮下圭一, 永野広海, 川畠雅樹, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫, 井内寛之

宮本佑美, 黒野祐一

第3回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

平成27年9月3日～4日（札幌市）

「扁桃周囲膿瘍におけるガレノキサシンの組織移行性に関する検討」

黒野祐一, 宮下圭一, 馬越瑞夫, 川畠雅樹, 永野広海, 原田みずえ, 大堀純一郎

「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリンの関与」

井内寛之, 黒野祐一

第28回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

平成27年9月10日～11日（大阪市）

「扁桃周囲膿瘍のCT所見とガレノキサシンの組織移行性に関する検討」

黒野祐一, 宮下圭一, 永野広海, 永野広海, 川島雅樹, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂

「翼口蓋窩から蝶形骨洞に腫瘤形成を認めたATLの1例」

永野広海, 地村友宏, 井内寛之, 黒野祐一

「中咽頭紡錘細胞癌例」

地村友宏, 永野広海, 宮下圭一, 川島雅樹, 馬越瑞夫, 井内寛之, 黒野祐一

第54回日本鼻科学会総会・学術講演会 平成27年10月1日～3日（広島市）

「内視鏡下鼻内手術を行った巨大鼻口蓋管嚢胞の1例」

積山幸祐, 黒野祐一

「鼻性眼窩内合併症の手術治療と視機能の関係」

宮下圭一, 黒野祐一

「ホスホリルコリン舌下免疫によるアレルギー性鼻炎の制御」

牧瀬高穂, 黒野祐一

第25回日本耳科学会総会学術講演会 平成27年10月7日～10日（長崎市）

「耳介経皮免疫による粘膜免疫応答の誘導」

永野広海, 黒野祐一

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology

Sapporo, Japan November 18-20, 2015

「Nasal Plasmid Flt3 Ligand And CpG ODN Alone Enhances Immediate, Influenza Virus-Specific Recall Secretory IgA Ab Responses In Aging」

J.Ohori, H.Asanuma, K.Ao, Y.Ikeda, G.Sugita, K.Fujihashi, Jerry R. McGhee, K.Fujihashi

第67回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成27年11月19日～20日（福島市）

「気道病変を合併したStevens-Johnson症候群の1例」

馬越瑞夫, 永野広海, 黒野祐一

第9回九州頭頸部癌フォーラム 平成27年11月28日（福岡市）

「頸部デスマイド例」

井内寛之，永野広海，宮下圭一，黒野祐一

第26回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成28年1月28日～29日（名古屋市）

「頸部デスマイド腫瘍の1例」

井内寛之，黒野祐一

第34回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成28年2月4日～6日（鳥羽市）

「樹状細胞をターゲットとした特異的粘膜免疫応答賦活化の試み」

大堀純一郎，黒野祐一，藤橋浩太郎

「耳介経皮免疫によるホスホリルコリン特異的粘膜免疫応答の誘導」

永野広海，大堀純一郎，黒野祐一

第28回日本喉頭科学会総会・学術講演会 平成28年3月3日～4日（大阪市）

「扁桃周囲膿瘍を合併した急性喉頭蓋炎症例の検討」

大堀純一郎，宮下圭一，原田みずえ，永野広海，牧瀬高穂，馬越瑞夫，井内寛之，
地村友宏，黒野祐一

「咽喉頭に発生したBasaloid Squamous Cell Carcinomaの3例」

牧瀬高穂，原田みずえ，大堀純一郎，黒野祐一

4. 国際学会発表

2015 Seven Departments Joint Meeting of Otorhinolaryngology

Seoul, Korea April 10-11, 2015

「Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Occurred in Patients with Head and Neck Cancer after S-1 Chemotherapy」

H. Nagano, Y. Kurono

「Clinical Classification of Peritonsillar Abscess and the Indication of Immediate Abscess Tonsillectomy」

M. Kawabata, H. Iuchi, J. Ohori, Y. Kurono

13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery

Tokyo, Japan December 3-4, 2015

「Nasal Plasmid Flt3 Ligand And CpG ODN Alone Enhances Immediate, Influenza Virus-Specific Recall Secretory IgA Ab Responses」

J. Ohori, Y. Kurono, K. Fujihashi

「The role of phosphorylcholine in the adherence of Streptococcus pneumonia and Haemophilus influenzae」

H. Iuchi, Y. Kurono

16th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery

Tokyo, Japan March 28-30, 2016

「A case of malignant lymphoma that was misdiagnosed as acute epiglottitis」

M. Harada, J. Ohori, Y. Kurono

「A case of acute oropharyngeal palsy with palatoplegia as the initial symptom」

T. Jimura, H. Nagano, M. Kawabata, M. Harada Y. Kurono

1. 医局人事（平成28年4月現在）

教 授	黒野祐一
講 師	大堀純一郎
助 教	原田みずえ，宮下圭一，永野広海，川島雅樹(海外留学中)，牧瀬高穂
医 員	問世田佳子，馬越瑞夫，井内寛之，地村友宏，宮本佑美

医 局 長	永野広海
外来医長	原田みずえ
病棟医長	牧瀬高穂

関連病院（平成28年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，吉福孝介
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元総合病院	森園健介
あまたつクリニック	谷本洋一郎
鹿児島市立病院	高木 実

2. 学会報告

第27回日本喉頭科学会総会・学術講演会

牧瀬 高穂

4月9日から2日間、東京で開催された第27回日本喉頭科学会総会・学術講演会に黒野教授、井内先生、私の3人で参加いたしました。私は喉頭結核について、井内先生は喉頭乳頭腫についての発表を行いました。質問もいくつかいただき、さらに熟考する元となる切り口に気が付くことができ大変有意義でした。防衛医科大学校が主催とのことから、自衛隊関連の展示があったり、特別講演が自衛隊の偉い方（海将補で耳鼻咽喉科専門医の先生）であったり、海上自衛隊横須賀音楽隊のコンサートがあったりと、いつもの学会と違った雰囲気でした。そのため、喉頭科学とともに日本の防衛と安全保障について深く学ぶことができました。私も喉頭科学のみならず、耳鼻咽喉科頭頸部外科の最前線で戦う一兵卒として、数々の防衛線を死守しなければならないと誓い帰路につきました。敬礼。

第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

牧瀬 高穂

長野県軽井沢町で5月8日から2日間の日程で開催された、第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会に黒野教授と参加いたしました。軽井沢町は私にとって初上陸の地でしたが、開通間もない北陸新幹線はくたかに乗って夜中に到着したところ、駅から宿まで500m程度のはずなのに、街灯ひとつない真っ暗闇の中を道に迷い、舗装されていない山道になぜか突き当り、クマが出てこないかと恐れおのき明るい方向を目指して歩くこと1時間、無事に宿へ到着できたときはほっとしました。ご懐妊のためお休み中の堂脇先生（旧姓宮本先生）の代打で、小児後鼻孔ポリープに関する発表を行いました。示唆に富む質問をいただき、有意義な発表となりました。学会会場と宿が同じであったため、周辺散策に行くことなく、小児耳鼻咽喉科領域についてみっちりお勉強いたしました。5月の軽井沢は所々に残雪があり南国人にはやや肌寒いでしたが、今度は明るい時間帯に観光で行きたいと思わせる素敵な町でした。

第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

永野 広海

2015年5月20日から23日の期間に慶應大学の主催で、東京国際フォーラムで開催されました。

当教室からは、宮之原先生が『アレルギー舌下免疫療法に関する医師の意識調査の検討』、川畠先生が『扁桃周囲膿瘍に対する即時膿瘍扁桃摘出術の適応について』、永野は『セツキシマブ放射線併用療法を行った16例における効果と有害事象の検討』を発表しました。また研修医の久徳先生と医学部6年生の中村さんも帯同しました。

日耳鼻期間の4日間とも盛会で各分野のエキスパートの発表を目の当たりにして、我々も益々頑張らなければ……

次回は2016年5月名古屋開催です。



追伸：東京はどこもかしこも中国人だらけでなかなか宿泊先の確保が大変でした。

第64回日本アレルギー学会学術大会

2015年5月26日～28日

東京 グランドプリンスホテル新高輪

宮之原 郁 代

今大会は、「21世紀のアレルギー診療の Gold Standard をめざして」というテーマで開催されました。特色としては、1) 免疫療法に関するシンポジウム、教育セミナーが充実していた、2) とくに保険収載が予定されていたダニアレルギーに対する舌下免疫療法（アレルギー性鼻炎に関しては2015年に保険収載）についての話題が多かった、3) 喘息予防管理ガイドライン（JGL）が3年ぶりに改訂されたのをうけたプログラムが多かった、さらに4) 呼気 NO 濃度測定は、喘息と COPD の鑑別や予後予測に有用なことから、この実践的な活用法と問題点をテーマにしたセミナーや、ポスター発表が多かった、などが挙げられるかと思えます。前述したようにダニを発症抗原とするアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法は、2015年末に保険収載されましたが、鹿児島県ではまだこの治療法を選択している患者さんは少ないようです。通年性アレルギー性鼻炎の有病率では、鹿児島県はトップ3にランクする位置づけです。長期寛解が期待できる唯一の治療であり、この治療を安全で有効に実施していけるよう今後も引き続き取り組んでいきたいと思っています。また、私は、抗原感作のパターンの多様性にとっても興味を持っているのですが、「アレルギー発症に関する診療科の横断的研究」（アレルギーマーチの多様性を再考する、司会：下條直樹先生、岡本美孝先生）では、膨大なコホートデータが示され、大変示唆に富む内容でありました。5月は、桜や紅葉の季節とはまた趣が異なり、風がさわやかで緑が美しい季節です。特に、鹿児島では春からいきなり梅雨、夏と目まぐるしく変化していくため、なかなかゆっくり味わえない季節でもあります。ささやかですが、学会の合間には、シャンパンを飲み新緑の季節を満喫することができ、まずまず充実した学会出張でした。

第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会

馬 越 瑞 夫

2016年6月3日から6月6日まで神戸市で開催された学会に、井内先生、クリクラの学生さんと共に参加した。井内先生は「Clinical Analysis of Nasopharyngeal Cancer」、私は「Evaluation of the Therapeutic Results of 6 Cases with Salivary Duct Carcinoma in the Parotid Grand」の演題で口演した。国際学会が併催されたことから、英語による発表、質疑応答が活発に行われており、おおいに刺激を受けました。夜は甲子園球場に阪神の応援（個人的にはマートン）に、また神戸の美食を堪能し、充実した日々を送ることができた。学生さん（女の子）は若干飲みすぎて、足元がおぼつかなかったのもよい思い出です。

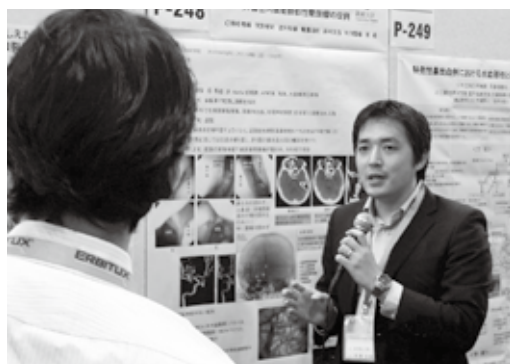
第77回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

2015年6月25日～26日に静岡県浜松市のオークラアクトシティホテル浜松・アクトシティ浜松で行われた、浜松医科大学主催の第77回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会に、黒野先生、積山先生、永野先生、牧瀬先生、そして私宮下の5人で参加しました。学会テーマは「Controversies in Otorhinolaryngology（耳鼻咽喉科学の論点）」でした。積山先生は、「PFAPA 症候群の一例」、永野先生は「巨舌とオトガイ下腫脹を契機に診断された全身性アミロイドーシス」、牧瀬先生は「血管内治療によって止血しえた蝶形骨洞内内頸動脈瘤破裂による鼻出血症例」、私宮下は「眼窩内蜂窩織炎を発症した篩骨洞神経鞘腫の一例」という演題でそれぞれ発表しました。次年度は我々が第78回の同学会を主催することもあり、視察も兼ねていつもよりも大人数で参加させて頂きました。ということで私は黒野先生とともに前日の会長招宴にも参加しました。初めて会長招宴という重鎮の先生方の宴に参加でき、いろいろな意味でいい経験になりました。YAMAHA 楽器の地元ということもあり、ピアノ生演奏もありました。そして世界的なピアニストの仲道郁代さんのスペシャルコンサートがあり、ショパンやモー



ツァルトの生演奏を堪能できました。ランチョンセミナーの弁当では、浜松名物のウナギ弁当が出て、老舗の鰻屋のこだわりで、ランチの時間に合わせて作っているのので、温かくて柔らかいウナギを食べることができました。また恒例の早朝ランニング・ウォーキングも企画されており、浜松城公園などを巡りながら走れるということもあって、積山先生と永野先生、牧瀬先生は早起きして参加されていたようです。実は浜松は宇都宮とならんで毎年ギョーザの消費量で競い合うほど、ギョーザが有名なところであり、2日目の夜には、黒野先生とともに医局員で人気ギョーザ店の行列にならんで、ビールと一緒においしく頂きました（写真）。2016年の当学会主催、がんばります。チェスト！



第30回九州連合地方部会学術講演会

地 村 友 宏

本年の九州連合は7月11日から2日間にわたり開催されました。主催は熊本大学で、会場は熊本テルサでした。九州沖縄の全11大学が参加し行われ、毎年恒例の野球大会や懇親会での新人紹介などが企画されました。野球大会は雨天中止となりましたが、急遽内輪でのボーリング大会に切り替え盛り上がりました。九州大学はいつもの通り大勢の、長崎大も4名の入局があったようでした。来年こそはうちにも入局してくれるようがんばっていきたいと思います。今年は初期研修医の久徳先生も同行してくれました。

耳鼻科に興味があるとのことですので、多方面に手を回し、手段を選ばず勧誘していくつもりです。夜の会では、今回熊本での開催ということで、いつも大変お世話になっている豊永医院の友永先生に食事会をセッティングしていただき、大変おいしい料理をいただくことができました。好き放題注文してしまいました、反省しております。本当にありがとうございました。行き帰りのバスの中ではI先生が酔っぱらって暴走し、先輩方が大変迷惑されておりました（特に宮下先生）。来年も楽しい学会になるといいです。



第22回 マクロライド新作用研究会

原 田 みずえ

H27年7月17日、18日に、東京にて開催された第22回マクロライド新作用研究会に参加させていただきました。

今、ヒト中耳粘膜上皮細胞を用いた、滲出性中耳炎に対するマクロライドの効果についての研究を継続しており、今回は「ヒト中耳粘膜上皮におけるサイトカイン産生に対するマクロライドの効果」と題して、発表させていただきました。その後も、論文化できるよう研究を続けているところです。マクロライドは抗炎症作用を併せ持った抗菌薬で、その他にもさまざまな作用を持っていて、EM900という新規マクロライドの研究も進んでいます。

耳鼻科以外の他科の先生方の参加がおおく、毎回、おもしろい話題がでてくるので、マニアックな感じですが、おもしろい研究会です。何か耳鼻科の診療に役立つような新しい情報があれば、還元していきたいと思っています。

第3回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

井 内 寛 之

平成27年9月3日～4日に第3回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会が札幌市で開催されました。大学からは黒野教授、井内、研修医中野先生が参加しました。黒野教授は「扁桃周囲膿瘍におけるガレノキサシンの組織移行性に関する検討」、井内は「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリンの関与」について発表しました。私の発表では厳しい質問をうけ、より理解を深め実験していかなければならないことを実感しました。夜はみそラーメンや海産物を食べ秋の北海道を満喫しました。

第28回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会

地 村 友 宏

2015年9月10日から2日間にわたり、大阪のホテル阪神にて口腔咽頭科学会が開催されました。黒野教授が臨床ミニセミナーで『口蓋扁桃摘出術：術後出血の予防と対応』の司会を務められました。さらに口演として『扁桃周囲膿瘍のCT所見とガレノキサシンの組織移行性に関する検討』の題で、当科における扁桃周囲膿瘍の即時扁桃摘症例について、抗菌剤の組織への移行、画像所見との比較検討をした結果を発表されました。永野先生が『翼口蓋かから蝶形骨洞に腫瘤形成を認めたATLの1例』を、私は中咽頭紡錘細胞癌の症例報告を行いました。耳鼻科で初期研修医として回ってくれている中野翼先生も一緒に参加してくれました。嚥下障害や扁桃病巣感染症のセッションを中心に聴講しました。大変有意義な学会となりました。

第54回日本鼻科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

2015年10月1日～10月3日に広島国際会議場で行われた広島大学主催の第54回日本鼻科学会総会・学術講演会に黒野先生、私宮下、牧瀬先生の3人で参加させて頂きました。黒野先生はランチョンセミナーで「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の新たな位置付け」というタイトルでご講演され、私宮下は一般口演で「鼻性眼窩内合併症の手術治療と視機能の関係」、牧瀬先生は「ホスホリルコリン舌下免疫によるアレルギー性鼻炎の制御」というタイトルで発表致しました。広島といえばお好み焼きということで、新幹線で前日の夜に牧瀬先生といっしょに広島駅着いてそのまま、早速広島駅でビールとともにいただきました。教育セミナーでは、「ESS：基本手技とその適応、副損傷の対応」で実際の基本となるESSの道具の使い方や実際の副損傷への対応などを動画でわかりやすく学ぶことができました。ランチョンセミナーでは宮島名物で老舗の穴子飯があり、とてもおいしく頂きました（写真）。学会場が平和記念公園と隣接していたので、空いた時間に原爆ドームなど観光することができました。最終日には、ライブハンズオンセミナーがあり、鴻先生、中川先生、アドバイザーとしてオーストラリアのRichard J Harvey先生が、副鼻腔CT画像から3Dプリンターで作成した頭部の模型（製作費5万円くらい？でCadaverよりも安い？）をもとに実際にライブで児玉先生が前頭洞手術を行うというセミナーがありました。すごい時代になったと思いが

ら、とても勉強になりました。



第25回日本耳科学会総会・学術講演会

永野 広海

2015年10月7日から10日の4日間長崎大学の主催で開催されました。

当教室からは永野が『耳介経皮免疫による粘膜免疫応答の誘導』の発表を単身で乗り込んできました。

同時期に長崎くんちが開催されており、どこもかしこも観光客だらけでした。おまけに学会中の宿泊先が1泊しか確保できませんでした。

あえて帰りは、長崎→茂木（フェリー）→天草下島→長島まで走



まだ余裕の天草下島

破しました。夜間の天草下島は通る車もなく孤独でしたが、満点の星空がご褒美でした。ただ長島行きフェリーの始発の2時間前に着いてしまい、公園のベンチで夜を明かしました。

第67回日本気管食道科学会総会・学術講演会 第8回喉頭機能温存治療研究会

馬 越 瑞 夫

福島市で行われた学会に参加しました。教授と2人きりで少し淋しい思いをしました。私は「気道病変を伴った Stevens-Johnson 症候群の1例」の演題で口演しました。教授は同時時間帯に別会場で座長をされており、すれ違いでした。なお学会の合間で喜多方ラーメンや山形牛といったグルメや、会津磐梯山等の山登りを模索いたしましたが、結局は学会場で大人しく講演会を拝聴いたしました。翌日には喉頭機能温存治療研究会に参加、その後浅草観光等できたのがよかったです。

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology

大 堀 純一郎

本学会は、平成27年11月18日から20日まで札幌で開催された。本学会では、私（大堀）が参加した。本学会は私の留学先であるのアラバマ大学バーミングハム校（UAB）での仕事を発表した。8月の帰国から3ヶ月経過した時点での日本での学会であり、UABの藤橋教授も参加され3か月ぶりの再会を楽しんだ。会場では、以前一緒に臨床で働かせていただいたこともある福山聡先生にもお会いすることができ、久々の再会とともに今後の研究についても様々なアドバイスをいただき非常に貴重な経験となった。臨床家の参加する学会としてはレベルが高すぎて、ついていけない部分ばかりの学会であったが非常に刺激になり、また勉強する良い機会であった。また昼、夜と札幌のラーメンを食べ歩く機会もあり日頃食べられない札幌ラーメンを存分に楽しんだ学会であった。

第9回九州頭頸部癌フォーラム

井内寛之

平成27年11月28日に第9回九州癌フォーラムが福岡市で開催されました。大学からは宮下先生、永野先生、牧瀬先生、井内が参加しました。発表は井内が「頸部デスマイド腫瘍の1例」について発表しました。各大学の難渋している疾患が発表され、各大学の先生方から厳しいご指摘等いただき大変勉強になりました。

第26回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

井内寛之

平成28年1月28日から1月29日に、第26回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会が名古屋市で開催されました。大学からは黒野教授、井内が参加しました。黒野教授は教育セミナー2「高齢者の頭頸部癌治療－治療法選択のポイント－」で司会をされ、井内は「頸部デスマイド腫瘍」について発表を行いました。教育パネルディスカッションでは「学会誌へ投稿するためのよい画像撮影のノウハウ」と題し、それぞれの先生がいかに綺麗に写真を撮るか工夫をされており、とても参考になりました。夜は世界の山ちゃんの手羽先を堪能しました。

第34回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

大堀純一郎

本学会は平成28年2月4日から2月6日まで三重の鳥羽国際ホテルで開催された。当科からは、黒野教授、永野先生、大堀の3人が参加した。永野先生は、これまでの経皮免疫、耳介免疫の演題をポスターで発表し、私はアラバマでの仕事を口演で発表させていただいた。耳鼻咽喉科免疫アレルギーは開催一日目の午後に教育セミナーを行うのが伝統である。今回久しぶりに参加させていただき非常に勉強になった。教育セミナー1では、制御性T細胞についてその免疫寛容と免疫監視のコントロールについて、教育セミナー2では、乳児の免疫応答についての詳細について話を聞くことができた。特に教育セミナー2のDCPチップによるイムノグロブリンクラススイッチの測定は当科の今後の我々の研究にもすぐに役立つと考えられ、その製品化が非常に期待された。学会では、

三重の竹内万彦教授が主催する初めての学会とのことで非常に盛り上がり学会内容とともに、懇親会も非常に印象深い学会であった。また三重の鳥羽は非常に美しい場所でその途中には伊勢神宮もあり、ちょっと足を延ばしてはじめてのお伊勢さんをお参りすることもできた。今後の私の研究継続と発展を天照大神をお願いした次第である。

2015 Seven Departments Joint Meeting

永野 広海

今年の7大学（Seven Departments Joint Meeting）がYonsei大学の主催で4月のSeoulで開催されました。

当大学からは黒野教授、原田外来医長、川島病棟医長、片平さん、永野の5名で参加させて頂きました。

4月中旬は鹿児島ではとっくに桜は散っていますが、Seoul市内は桜が見ごろでした。市内観光や宴会による親睦が目的の学会のため全員旅として満喫しました。宴会の韓国牛やYonseiワインは大変思い出になる味でした。

発表は、Yonsei大学内の講堂でありましたが、超近代的な病院で大変驚きました。ちなみに発表は川島先生と永野で・・・詳細は割愛させていただきます。

次回は大分大学の主催で2017年開催予定です。



川島先生の口演



とても辛口鍋



肉!!



観光スポットの一コマ

13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery

大堀 純一郎

本学会は、平成27年12月3日、4日に東京大学の主催で、東京の一橋大学一橋講堂で開催された。当科からは黒野教授、井内先生、大堀の3人が参加した。井内先生は、「The role of phosphorylcholine in the adherence of Streptococcus pneumonia and Haemophilus influenza」の演題でポスター発表をおこなった。私（大堀）はアラバマ留学での研究内容を発表させていただいた。久しぶりに参加した学会であったが、一般演題では TEES (Transcanal Endoscopic Ear Surgery) の群が盛り上がりを見せていた。内視鏡の進歩と道具の進歩により今後も進歩していくであろうと非常に印象深かった。またガラディナーでは、南九州の3大学（熊本大学の湯本英二教授、宮崎大学の東野哲也教授、鹿児島大学黒野祐一教授）の耳鼻咽喉科教授が一つのテーブルに会した。今年度で退官を迎える湯本英二教授とともに、このお三方が一つのテーブルで話をする最後の機会かもしれない貴重な瞬間に立ち会い、楽しい会食ができた。

4. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

平成27年度の鹿児島医療センター耳鼻咽喉科ですが、年度前半は防衛医科大学耳鼻咽喉科の田所慎先生が昨年から引き続き研修にきていただき、さらに医療センターで研修する期間を長くとってもらったおかげで快適に仕事を進めることができました。現在、田所先生は入間基地に戻って元気に仕事をしています。その後は3人体制に戻って、いつものペースになりました。平成27年12月には、大学の耳鼻咽喉科でも研修した久徳先生が1ヶ月研修に来ていただき、アグレッシブに仕事をさせていただきました。今年度の鹿児島での耳鼻咽喉科臨床科学会にも鹿児島医療センターで経験した症例を発表予定ですので、医局全体で暖かく見守っていただければと思います。

平成28年度は前々から切望していた副鼻腔内視鏡のナビゲーションシステムがよいよ鹿児島医療センターに導入することが決まりました。鹿児島の手術ができる施設では遅い導入となりましたが、その分最も新しいバージョンです。付属のシェーバーは喉頭の乳頭腫の手術にも使用できますし、副鼻腔のドリルを使用した手術も可能となりますので、今までレンタルしていたことを考えると飛躍的に利便性・安全性が高まります。平成28年度は4月から研修医が2か月連続で3人が耳鼻咽喉科に研修に来ていただけますので、新しい機器を使って研修に役立てていただければと思います。新しい技術は研修医にもアピールになりますので、ナビゲーションシステムは特に視覚に訴えていい宣伝になるかもしれません。また、最近では耳下腺や先天性耳瘻孔の手術などの細かい部位を見る必要があり、視野があまり広くない手術では拡大鏡を使って手術を行っています。ちょっと目は疲れますが、安全性の向上には有効と思って積極的に使用しています。

平成27年度の手術症例は、内容がほぼ変わらないものの、手術件数は多くなってきており、年間700件を超えました。入院期間も病院自体のベッド数が足りない傾向にあり、これまでより短くなっています。平成28年度も引き続きより良い医療を提供できるよう努力しますのでよろしくごお願い申し上げます。

手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	102例
内視鏡下鼻副鼻腔手術（腫瘍，devi+subcon 同時手術も含む）	両側54例 片側122例

鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲介骨切除術	17例
オスラー病に対する手術	1例
BOF など骨折整復手術	2例
鼓室形成術	17例
鼓膜形成術	7例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	4例
悪性外耳道炎手術	1例
チューブ留置術・アデノイド切除・先天性耳瘻孔など	32例
耳下腺良性腫瘍摘出術	37例
顎下腺良性摘出術・顎下腺腫瘍摘出術	16例
舌下腺良性摘出術・舌下腺腫瘍摘出術	6例
甲状腺良性腫瘍摘出術	10例
副甲状腺腫瘍摘出術	4例
頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	29例
副咽頭間隙腫瘍摘出術	2例
深頸部膿瘍切開排膿	4例
気管食道分離術	1例
口腔腫瘍など	14例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	101例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	37例
	620例

悪性疾患

頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建術あり）	11例
喉頭全摘術	2例
口腔・咽頭悪性腫瘍手術（経口腔的。頸部郭清術同時施行例含む）	19例
喉頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	12例
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3例
頸部郭清術単独	12例
甲状腺悪性腫瘍手術	18例
耳下腺悪性腫瘍手術	4例
顎下腺悪性腫瘍手術	1例
	82例

総症例数 702例

鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつもお世話になっております，鹿児島市立病院耳鼻咽喉科の高木です。

昨年中は特定共同指導・病院移転・病院機能評価の大きな試練を耐え抜きました。

通常の業務中に味わえない，様々なストレスがあり疲れました。

やはりその中でも病院移転はワクワクドキドキでした。可能な限り入院患者を減らすため，移転前より紹介患者の制限等のお願い等の協力には感謝しています。

ようやく最近，新病棟・新病棟スタッフ・新外来器具・新システム等にも慣れてきたところです。新病院が開院し，『耳鼻いんこう科』から『耳鼻咽喉科』へ変更し，気持ちを新たにと思っていたのですが，水曜日金曜日の新患日には新病院見学者？とおぼしき受診が多数見受けられました。遅い時には19時20時まで外来診療になることもありました。そのような日々が過ぎていましたが，ようやく紹介予約制や紹介患者の優先診察という有り難い病院方針が示され，幾分診療にも大変助かっています。

なにとぞ紹介の際には紹介予約センターの活用をお願いします。

緊急時等には，直接連絡をして頂ければと思います。

今年度も鹿児島市立病院耳鼻咽喉科を宜しくお願いします。

尚，新病棟からの眺めは最高です！

是非遊びにいらしてください。

藤元総合病院便り

森 園 健 介

皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元総合病院に勤務させていただいております森園です。先日、耳鼻科外来のスタッフたちとお花見に行ってきました。(この原稿の締め切りが春先ということもあって、ちょうど桜のシーズン頃を書くことが多いんですね。)

都城には母智丘公園や観音池公園といった桜の名所があるのですが、今年はお隣の三股町にある上米公園でのお花見でした。ちょっとだけ時期が早くて花はちらほら咲き始めたかな、という程度でしたが、スタッフと仲良くバーベキューで親交を深め、今年度もがんばりましょうと氣勢を挙げた次第でした。

当院のここ1年間の変化ですが、病院全体としては相変わらず診療科の入れ替わりがいくつかありました。まずは今年4月から消化器内科の常勤医がいなくなることになりました。消化器外科との連携が取れなくなってしまうこともあり、病院としても頭の痛いところのようです。もともと内科常勤医が少ないこともあって、今後は消化器内科のみならず総合内科なども含めた内科の拡充を期待したいところです。

その一方で一時期撤退していた眼科が再開しました。今春からは手術やコンタクトの販売なども開始されるとのことで、病院側も期待されているところかと思います。

そして今年4月から放射線治療科に荻田医師が復帰されることになったようです。まだ直接お話しさせていただく機会がないところですが、以前と同様に頭頸部領域の悪性腫瘍へのサイバーナイフ治療などに御尽力いただけることかと思しますので、症例がありましたらご紹介を宜しくお願い致します。

耳鼻科外来としては、電子ファイバースコープを先日新しいものを購入していただきました。HD画質に加えてNBI等も施行できるようになり、また動画の録画も出来るシステムになりましたので、今後NBIや嚥下内視鏡などについて学んでいきたいと考えております。

日々の業務におきましてはこれまでと同様に大学病院等の先生方や、近隣の御開業の先生方には御迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、引き続き今後ともどうか宜しくお願い致します。

鹿児島生協病院便り

積山幸祐

先日、鹿児島生協病院で勤続10年の表彰式があり金一封とともに感謝状をいただきました。鹿児島生協病院に赴任してなんと11年が過ぎようとしています。送る月日に関すなして、あっという間に過ぎた気がします。

手元にあるわずかな資料をもとに鹿児島生協病院耳鼻咽喉科の歴史を振り返ってみると鹿児島生協病院耳鼻咽喉科は1985年9月2日に最初の診療を開始しました。初代は飯田先生で、その後現在まで12名の常勤医師が耳鼻咽喉科診療にあたってきました。大学関連病院のなかでも最も外来患者が多く激務であったようで、94年7月からは週2単位の医師2人体制（非常勤一人）が実現し、さらに97年4月からは常勤医師2人体制となりました。その後2004年3月まで常勤医師二人体制で診療にあたり、外来、手術、入院患者が増えました。鹿児島生協病院耳鼻咽喉科が最も充実していた時期であったようです。2004年4月からは再び医師一人体制となり2005年4月に私が赴任してから現在に至るまでこの状況は変わっていません。

しかし、ここ10年の間に手術室と病床数が増え、集中治療室もできました。10年前と比べて手術や入院治療をより積極的に行える環境が整ってきています。また、重症糖尿病等の合併症を有する患者や全身状態の悪い患者では、総合内科医と一緒に治療にあたることもできます。このような環境ですので、医師一人でも施行可能な耳科手術、鼻科手術、口腔咽頭手術、喉頭微細手術等は積極的に施行し、必要時には外科医の支援を得ながら腫瘍等の頭頸部外科手術も積極的に施行していきたいと思えます。

2015年度の手術室での手術症例は167例で昨年度より減少しました（下記）。大流行したインフルエンザの影響で予定手術が延期になったことや学会出張、臨時休診等の影響があったかと思われます。現在は、手術はほとんど待ち期間なく施行できますのでご紹介ください。

【2015年度 手術症例（手術室にて）】	計
扁桃摘出術（含む+アデノイド」切除）	61
軟口蓋形成術	1
アデノイド切除術（含む+チューブ留置術）	7
術後出血止血術（扁桃 副鼻腔）	3
鼓室形成術	3
鼓膜形成術	4

顔面神経減荷術	2
外耳道異物摘出術	1
耳介腫瘍摘出術	2
先天性耳瘻管摘出術	4
鼓膜チューブ留置術	9
内視鏡下鼻内副鼻腔手術（含む＋鼻中隔矯正術）	27
術後性上顎嚢胞手術	7
鼻中隔矯正術＋粘膜下鼻甲介（骨）切除術	3
鼻粘膜焼灼術（鼻出血）	1
耳下腺腫瘍手術	4
がま腫摘出術	1
口唇粘液嚢胞摘出術	1
舌小帯短縮症手術	
正中頸嚢胞摘出術	1
声帯ポリープ結節摘出術	7
声帯嚢胞摘出術	1
喉頭腫瘍摘出術	3
頸部腫瘍摘出術	1
唾石摘出術（口内法）	2
頸部リンパ節生検	1
気管切開術	2
上顎骨骨折整復術	1
頬骨骨折整復術	1
甲状腺癌手術	2
頸部嚢胞摘出術	1
喉頭蓋嚢胞摘出術	1
頸部膿瘍切開排膿術	1
計	167

天辰病院便り

谷 本 洋一郎

天辰病院の谷本です。天辰病院に赴任して8年目になりますが、昨年から今年にかけても、スタッフの皆さんの御協力もあり、特に大きな事故もなく過ごすことができました。

当院では耳鼻咽喉科診療はあまたクリニックの方で行っており、本院天辰病院の2軒隣にあります。そのため耳鼻咽喉科入院患者さんや院内紹介の患者さんの処置、検査等の診察が必要な際には患者さんにクリニックまで来ていただかないといけないことも多々あります。患者さんの状態や天候次第でなかなか診察したい時に診察できない苦勞もあり、また状態の悪い患者さんやめまいで入院されている患者さんはできる範囲でベッドサイドでの診察を行うようにしますが、時にどうしても検査が必要な際には申し訳ないと思いながらクリニックまで足を運んでいただいています。天気の悪い日は特に地下で本院とつながらないかなとよく思います。

当院の入院は大部分が大学からの紹介で、自宅が遠方とか離島のため画像検査等で大学に通院するのが大変とのことで検査の間当院に入院していただいたり、また悪性疾患の治療後経口食がうまく進まない方、疼痛コントロールがまだうまくいっていない方等の入院が多くあります。その他に多いのは突発性難聴や顔面神経麻痺の患者さんですが、突発性難聴や顔面神経麻痺、または扁桃周囲炎や扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎等の急性の炎症性疾患は開業医の先生からも御紹介頂くことも多々あります。

また当院はCTもありほぼ予約なく撮影可能です。顔面外傷での骨折の有無、また扁桃周囲膿瘍での膿瘍の有無確認の造影CTも撮影可能ですので御紹介していただければと思います。

一人勤務であり、何かと御迷惑をおかけすることもあると思いますが、引き続き何卒よろしく願い申し上げます。

XIII. 関連病院

(平成28年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火 (8:30~16:30)	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	土の午後
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	金 (9:00~17:00)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木 (10:00~16:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2, 4土曜日 (9:00~15:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 済霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

Ⅳ. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年 12 月 7 日 ～ 3 年 12 月 21 日 平成 5 年 10 月 12 日 ～ 10 月 17 日	Department of Clinical Sciences(ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成 3 年 4 月 10 日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月 17 日 ～ 5 年 5 月 16 日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月 26 日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月 28 日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月 18 日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成 6 年 3 月 11 日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月 19 日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成 5 年 1 月 25 日 ～平成 9 年 3 月 31 日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

Ⅳ. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成 6 年 4 月 4 日 ～ 7 年 6 月 13 日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成 6 年 10 月 3 日 ～ 11 年 3 月 31 日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成 8 年 1 月 25 日 ～ 8 年 12 月 30 日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年 3 月 23 日～H13. 9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年 4 月 2 日～H17. 3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月 1 日 ～H21年 2 月 13 日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在 局 期 間
西 宜 行	研 修 生	59. 4-59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4-60. 6 61. 1-61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4-62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4-63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63.10-63.12
三 角 芳 文	研 修 生	63.10-63.12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H2. 7-H2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H2.10-H2.12
宮 原 広 典	研 修 生	H3. 1-H3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H5. 7-H5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H5.10-H5.12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H5.10-H5.12
的 場 康 平	研 修 生	H7. 1-H7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H7.10-H7.12
泊 口 哲 也	研 修 生	H8. 1-H8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H8. 7-H8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H8.10-H8.12 H9. 4-H9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H9. 1-H9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10.4-H10.6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11.1-H11.3
横 山 孝 二	研 修 生	H11.4-H11.6

氏 名	最終職別	在 局 期 間
田 中 裕 之	研 修 生	H11.7-H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13.6-H13.12
森 田 義 紀	研 修 生	H15.1-H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。

第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 同門会総会の開催
2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
3. 記念事業の開催
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

第5条 本会は会員を次のとおりとする。

教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。

第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）

第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。

第8条 会員は希望により退会することができる。

第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。

なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。

第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

ようやく長かった冬が過ぎて、学内にも春の便りがきています。学内の桜も数日前から先はじめあと数日後には満開でしょうか？

昨年一年を振り返ってみると色々となりました。

名誉教授の大山勝先生がお亡くなりになりました。現在学内の医局員では黒野先生・宮之原先生以外は直接指導を受けたことはありません。ただわたしが約10年前県立大島病院の勤務期に大野郁夫先生の計らいで数回宴席にお邪魔させていただき、先生の著書である『優しさを育む心の扉』を頂きました。今も大事に保管させていただいております。また私が先生の出身地である十島村での勤務のことを話すと、先生の若い頃の苦労話・笑い話をしていただいたことがついこの間のようによみがえります。また直接お会いすることはできませんが、教室の写真の先生はいつも我々を見守って下さっていることでしょう。安らかにお眠りください。

さて話は変わりますが、5月には間世田佳子先生、12月には堂脇佑美先生が無事に出産されました。子育てはいかがでしょうか？8月にはアラバマに留学していた大堀純一郎先生が帰国され、交代で川島雅樹先生が留学しました。また馬越先生が無事に専門医試験合格されました。

また研究棟耐震化に伴い医局がリニューアルされました。一時的に1階の仮設スペースへの仮住まいから3月末でリニューアルされた医局へ引っ越し、心機一転と行きたいところです。

さて相変わらず少ない医局員ですが、仲良く臨床・研究・教育に切磋琢磨しております。微力ながら頑張っております。医局運営のいつもご支援いただいている同門会会員の先生方にはこの場をかりてお礼申し上げます。

平成28年4月吉日

編集長(医局長) 永野 広海

編集委員 原田みずえ

井内 寛之

大夫堀昌子

さくらじま 第29号

平成28年6月22日 印刷

平成28年6月29日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社

電話 (099) 268-8211